

攝津名所圖會

下 矢田部郡



奥北原



春泉画

右
奥北原

明泉寺



長田社

新古今

涉兒身

花の
うしろ

卷之三

神の

178

卷之六

01643

一



直々榛原 いさの榛原

白菅の真也、榛原へ心もあきらめ、夜をこぞ。

類字和分集、小真堂、大和國とある、小佐、突沖、吐懷、編、小曰、ひ、や、あ、え、わ、い、や、の、あ、い、万、系、集、資、三、小、わ、の、く、高、市、黒、人、の、有、二、首、の、内、上、小、白、菅、の、ま、の、も、た、あ、く、う、そ、君、あ、み、め、の、い、ま、た、う、と、あ、れ、は、の、國、へ、え、え、わ、い、や、く、と、い、ふ、み、や、ゆ、あ、う、思、半、あ、つ、れ、う、ち、た、つ、榛、原、と、ま、く、う、の、ふ、つ、あ、り、は、ゆ、小、資、七、小、資、本、の、う、こ、小、白、菅、の、真、也、の、榛、原、へ、か、も、い、わ、ね、家、々、衣、あ、と、こ、榛、原、日本、紀、蔡、摺、衣、と、有、く、皮、衣、ゆ、う、く、は、奥、に、用、ら、う、と、い、ふ、

前武藏刺史平知章墓

元能村の山上、街道の南側、あり、討死の所、い、

志、編、集、の、時、さ、に、巡、り、山、は、あ、り、享、保、年、中、並、氏、抄、津、中、其、名、を、賞、い、海、道、に、還、の、酬、今、の、地、小、移、に、地、本、の、忠、孝、と、嘆、せ、い、ん、る、と、い、ふ、

生田衆の大將軍新中納言知盛卿の沖子、武藏守知章侍、小監物太希頼方主従、二騎、お、か、れ、江、の、方、一、處、の、い、ま、源、氏、の、武、士、兒、王、黨、と、覺、り、く、て、圍、廊、の、旗、を、る、者、十、騎、計、鞭、鐙、を、合、せ、く、

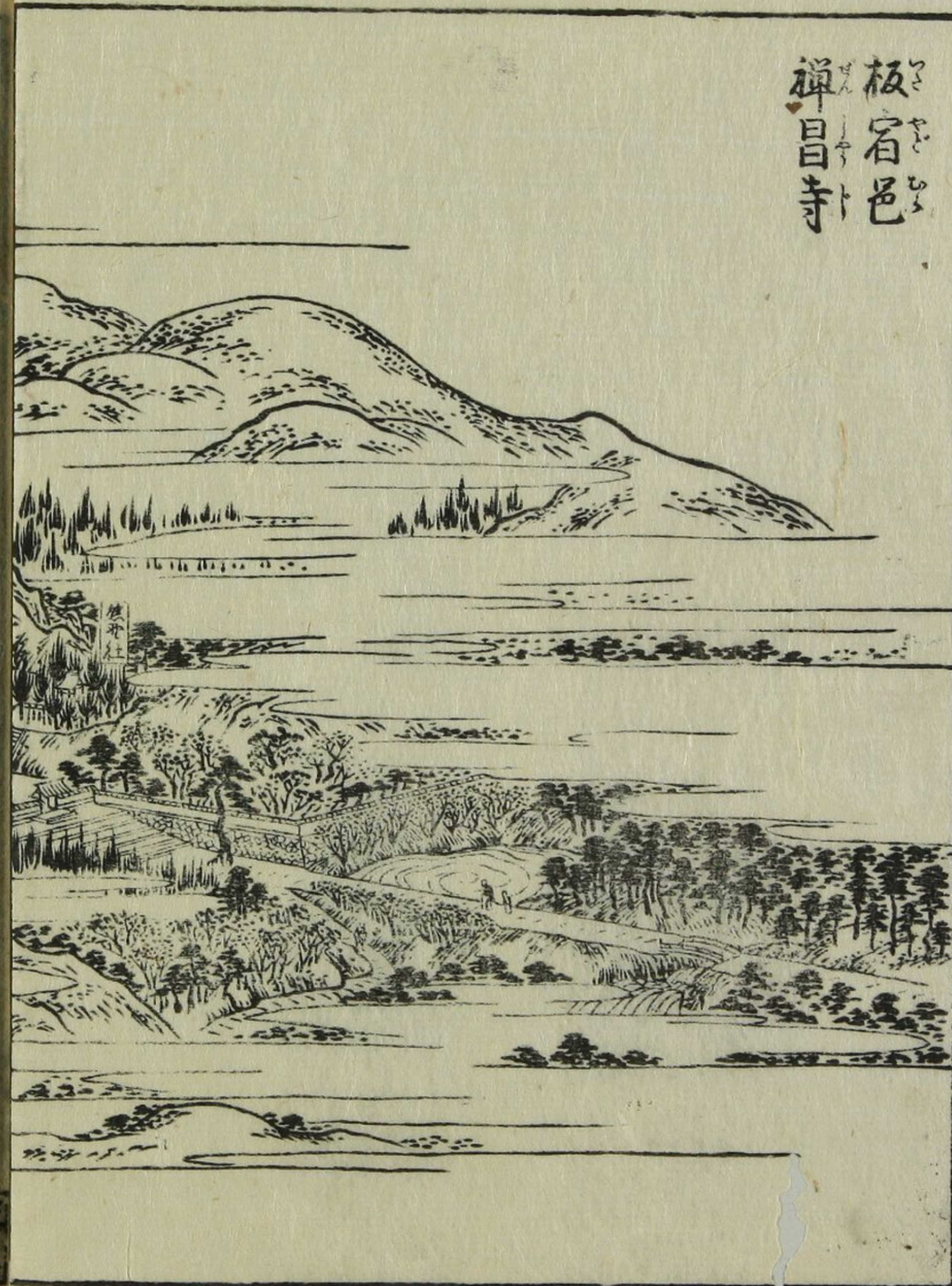
追駈、る、監、物、を、希、へ、究、責、の、弓、れ、上、も、あ、り、た、れ、取、く、と、先、真、は、小、進、る、旗、を、頸、の、骨、と、兵、と、射、て、馬、より、倒、小、射、落、其、中、の、大、將、い、覺、り、た、者、新、中、納、言、を、組、ま、う、ん、と、馳、雙、づ、新、沖、子、武、藏、守、知、章、父、と、討、せ、と、中、小、滿、う、押、雙、無、と、組、て、と、と、落、取、く、押、へ、く、頸、を、撥、上、う、ん、と、一、か、所、小、款、を、落、合、て、武、藏、守、知、章、の、首、を、取、監、物、を、希、落、ち、る、武、藏、守、を、討、ち、う、一、款、を、落、討、て、う、其、後、夫、村、の、有、程、射、盡、一、お、ち、抜、く、残、ひ、う、う、う、の、膝、に、武、健、小、射、を、ま、上、ら、で、居、か、う、討、死、く、と、い、ひ、終、小、新、中、納、言、知、盛、卿、の、其、と、つ、逃、延、び、の、ひ、を、

監物太郎頼方墓

知章墓の山、街道の側、畑の中、あり、

これ、知、章、卿、の、討、死、く、父、と、助、監、物、太、希、へ、主、君、眼、茶、の、款、を、討、く、共、小、討、死、く、知、盛、卿、と、扶、く、平、家、の、沖、小、も、あ、り、の、英、雄、へ、又、推、が、上、に、ま、ん、や、た、侍、小、い、る、齊、の、華、周、晋、み、推、か、く、同、日、の、論、の、人、傑、め、り、

板宿邑
禪昌寺



聞一越中若司も人目め二十人づか居るといふ内々六七十
人上下を船と只そ人々推上推下を程の力と云ふ猪俣
と取と押と初らば猪俣下臥かぐ刀と抜うとそれと猪俣
役と云ふ刀の柄と握るふも及ばぬ云々とそれと能く強
押しと云ふ聲も出されと猪俣へ大剛の者ありと云ふれは
の身成休く欲の頸を捕といふ我も名を聞く聞せ欲も名を
せと頸取たればとて大功あれ名もわぬ頸取ては云ふと
と云ふれは越中若司實もとて思ひん本は平家の一門なり
身不肖あるは依りて當時侍ふかされ越中若司盛俊といふ者
和名は若名宗聞へと云ふれは武藏國住人猪俣小平六則綱
といふ者といふ我今助を望ませ候と平邊の一門何十人も
望よ今度の勲功の賞を申請て平令計とは助けをいふと
越中若司大不怒と盛俊身不肖かといふ流石平家乃一門

あり盛俊源氏と憑とも思ひん源氏も亦盛俊に憑れ
とも思ひん思ひん惡君と申様哉とて既小頸と云ふとそれ
を正し候源氏の頸様や有と云ふれば更助とてとて赦
たり堅田の畠様あるは後水田のあり源よりあは様乃
上ふ二人か腰お懸く息終居り良の川に緋威の鎧
着く月もある馬も金覆輪の鞍並く乗うり武若一騎
鞭を令せと馳るは越中若司性氣小足なれは猪俣
小親候人見四弟で候と則綱が有候と猪俣と覺候若
も候ぬと云ふとわねは近付程ありと綱んと云ふのさ合ぬ
事なりと云ふと思ひ待所小交一段計小馳ある越中若司
初は兩人の款二月つて足るが次第小近付款をハタ守て
則綱を見ぬ猪俣力足成踏立上り春を強極る盛俊
が鎧の胸板をグツト突て後一ツケ小突倒に起上らんや

と所新成猪俣上小系無二越中若司の腰の刀と拔體の草摺
引上く細巻も透くと二刀刺く頸と取去後人見口糸も
出たり加様の時の論どる事も有とく應て頸とは太刀の銘
貫た高く括上ケ大若聲揚く日未平家の所方に鬼神や
聞へる越中前司盛俊と武藏國住人猪俣小平六則綱
う討つるやと名系て其日の高名の一尋み附ふふ

蓮之池

蓮池の西の方あり度サに百五十畝むりり基の跡一り農業者
魁の懸成漆人なる蓮一株成種ゆひ津土の八功德池
の新ありふりく蓮の池といふとせ

蓮洞

蓮池の山岩あり土人り墓祠といふ巡り小古松数あり
ちれの家ありんといふと考に

淀橋

真也の浦の一名とも又駒ヶ林村ありともい
都くは辺の地名成まきと浦といふ

淀

まの浦は淀のつた橋はたもせつとく人ぞつるふ
あつるや淀の橋よりとるふれあ人ぞ忘つるふ

源氏

源氏松の村中ふあり源氏松の村中ふあり
植るやいといふと一名駒ヶ林村成ハ二葉松又茶松とも

薩摩守忠度

駒ヶ林の中ふあり薩摩守忠度の石塔成居りり里中
さふ思部六弥太忠度進うけられぬとて
明石にありり腕振ありとてサ摩守忠度卿の平相國より
六の舎ありとく一谷の道のたれ大將軍あり文武道強
の平業六輔の奥有と勝る名將と忠度といふ
これと旅宿花といふ題あり

後拾

支本

井哇抄云

真也の浦

真也の浦

真也の浦

真也の浦

真也の浦

真也の浦

真也の浦

真也の浦

真也の浦

先師家

お前家

冷法

冷法

冷法

冷法

冷法

冷法

冷法

冷法

冷法

冷法

史実

経明

長安卿母

忠^{ちゆう}と書^かはる故^{ゆゑ}ふこを薩摩^{さつま}おとしありてなれと采家^{さいけ}お告^つふ足^{あし}より
又^{また}岐蘇^{きそ}の義仲^{ぎちゆう}平安城^{へいあんじやう}ふ攻入^{こうに}むせり時平家^{ときへいけ}乃一族^{なりいつく}
安德^{あんどう}系^{けい}成^{せい}奉^{ほう}西海^{さいかい}ふ落^{らく}りし一門^{いっもん}の運令^{うんれい}々々や吾果^{われが}
て五條^{ごじょう}三位^{さんゐ}俊成^{しゅんせい}口の件^{けん}ふあり一門^{いっもん}の運令^{うんれい}々々や吾果^{われが}
撰集^{せんしゅう}の御沙汰^{ごさた}有^あつて由緒^{よしづ}よくひやく一首^{いっしゆ}ありとも
中恩^{ちゆうおん}成^{せい}常^{じやう}ふとく百餘首^{ひやくじよしゆ}書^かあつたりける事^{こと}おもしろひの
引^ひあかせより取^と出^でしくなる後成郷^{ごせいきやう}の坊^{ぼう}をこれゆきとぬ
うりひ上のゆめく跡畧^{しかり}を存^{ぞん}候^{こう}うのねも只今の所^{ところ}よりこそ
情^{なさけ}も深^{ふか}うあれも村^{むら}ふ傷^{いた}ましくこそ久^{ひさ}と宣^{のたま}へば薩摩^{さつま}をかづひを
野山^{のさん}ふさうこそさうせ浮名^{うきな}成^{せい}西海^{さいかい}の波^{なみ}に流^{なが}うは流^{なが}せ今^{いま}ハ
心^{こころ}い盡^{つく}東^{とう}方^{ほう}ふ馬^{うま}におのり曹^{そう}の然^{しか}と一^{ひと}めさ落^おるれ
具^ぐ後千載^{ごせんざい}集^{しゅう}ふ故郷^{こきやう}の墓^むとり人題^{ひとだい}みくよまれうろろと
續^{つづ}人^{ひと}志^しうんとて入^いられうろ

片波や志賀の都へあまきと昔かゝれ山さへ我

あれも五家物語に見ゆ近江筑波の石正躰が
忠度卿と慕はるる詩か

江山天暮宿誰家。客少芳菲棲亂鴉。
龍去六軍行幸日。歌成千載故鄉花。
無邊風雨摧瓊樹。一行春雲捲赤霞。

唯有須磨浦上月松濤依舊落平沙

菅神飛松 板宿村の山頭ふあり菅の筑紫一教あり時邪よりうき飛来し
多るを儀ふ天満宮八幡宮の社あり此地の生土神也

神搖山禪昌寺
旧村の小山にあり舊取山と号す
禪宗源家

本尊聖觀音（安河派の作）
長式尺計
洞基正續大祖禪師
（日菴宗說和造）
とくへん

延文中の系創之傳云宗光和浩は英濃國の人と姓ハ江氏と云ふ
幼少より孝翁小陸身一丰唐土美壁山へ宅を隱居の宗意云

授^レ王^ノ瑞^ノ朝^ノの^レ後^ニ瑞^ノ山^ノ小^ノ舟^ノり^ニ坐^シ禪^スと^スる^ノ半^ノ日^ノあり^ニ対^シふ^ノ神^ノ人^ノ來^リッ^ニ顔^ヲ面^ヲと^シ接^スる^ノ翌^ノ日^ノ山^ノ峯^ノ一^ノ攀^リ宅^ノと^スる^ノ奉^リ釋^ス天^ノの^レ神^ノ祠^ノあり^ニけ^レと^ス現

但別黒門大明寺ふ入ッく康應元年二月廿一日寂次

方丈画 牧野永徳の著、城別、伏見、豊太庵の所、城より、あ、に、移、
秀吉に播別之本の城と攻らる、附、け、寺、久、平、其、荒、廢、

再興の所教書成賜へ
鎮守
熊野権現を奉る一説は神功皇后三韓歸朝の所時より

至り石彦の弟の蒙と撫育人故
神撫山とくく小は神茂系傍
本犀
仲殿の弟あり院基を崇
唐土より將來くけんとく

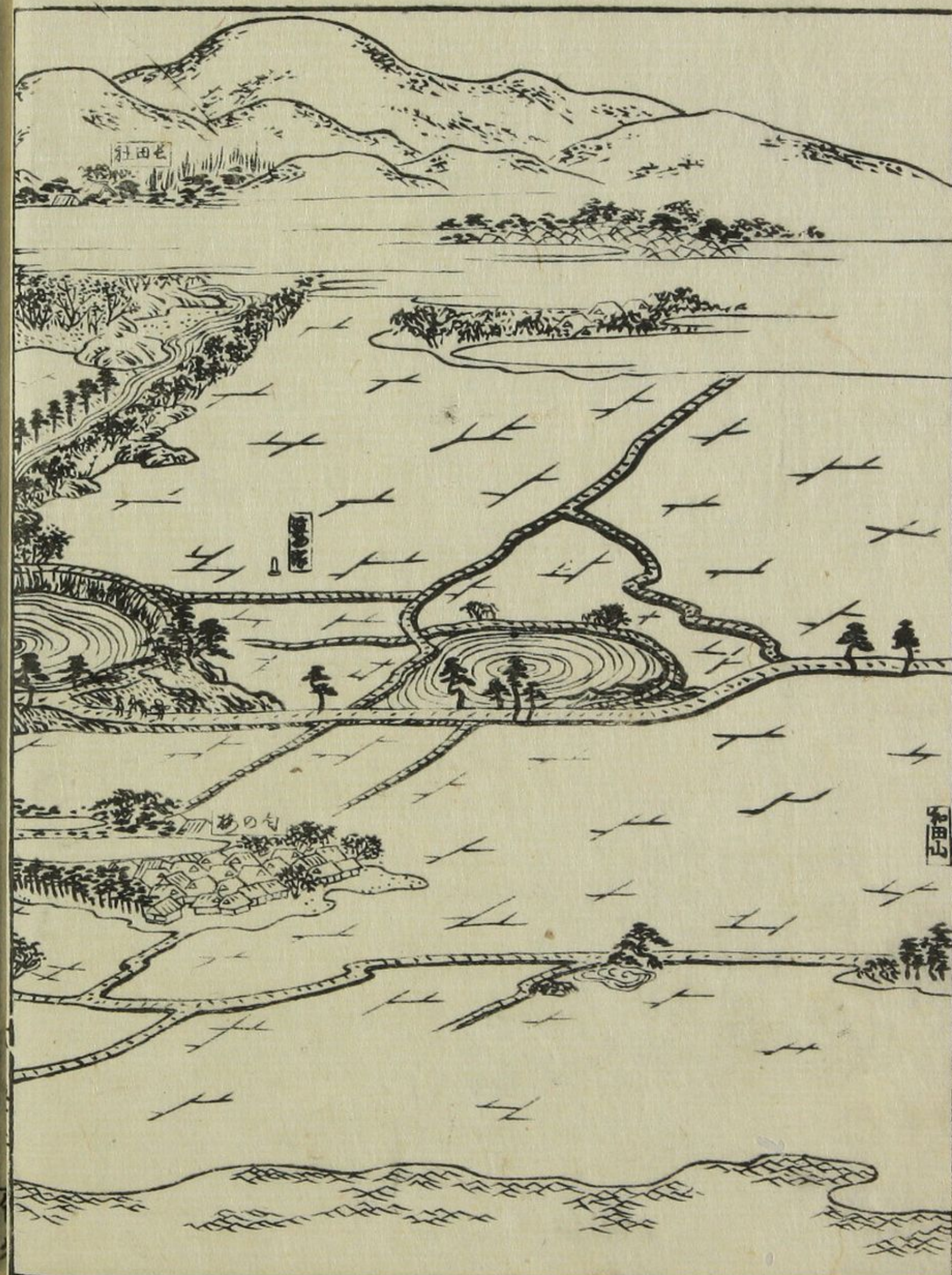
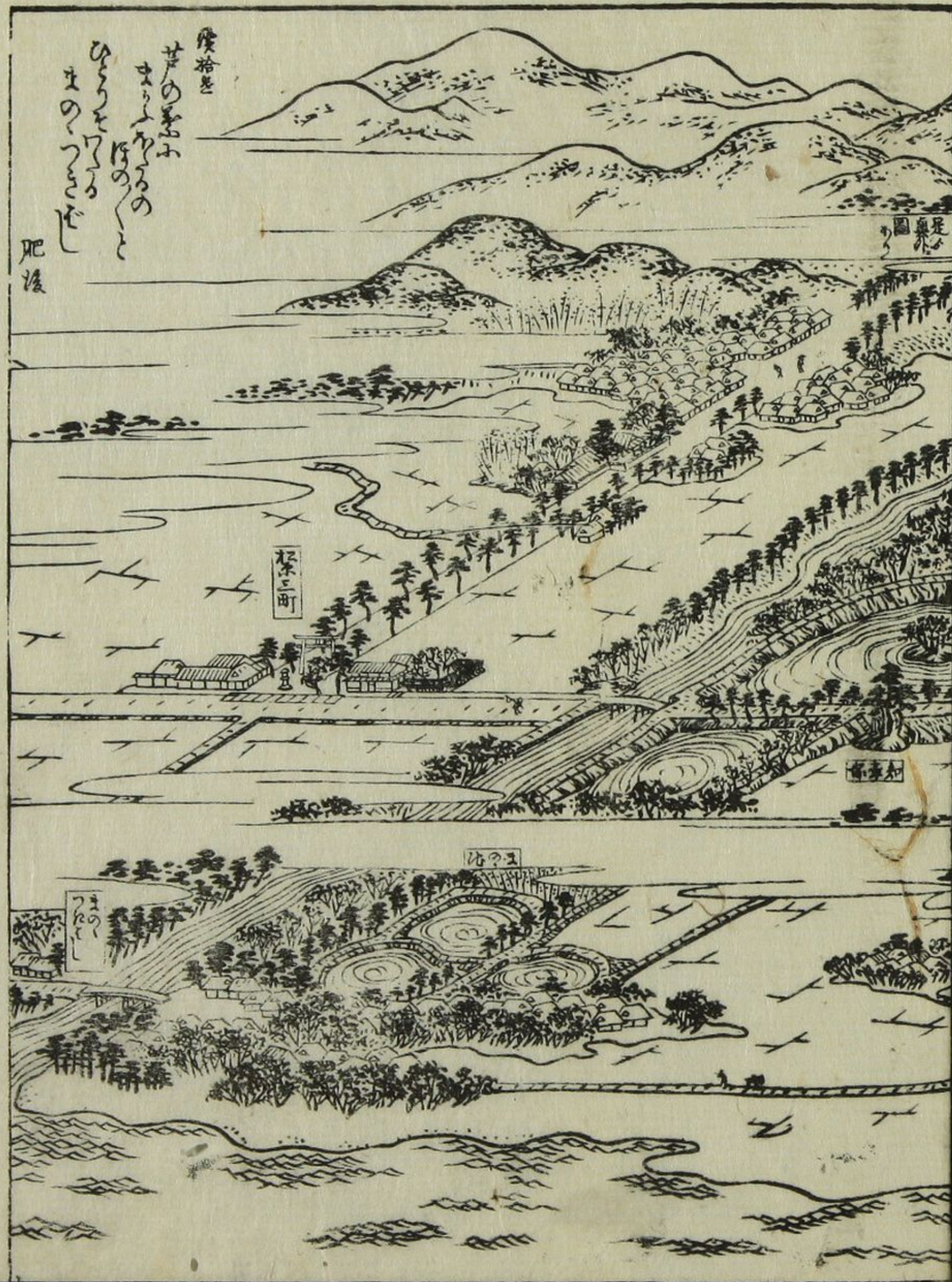
呂氏春秋曰桂之一種也叢生巖嶺間謂之巖桂俗呼為木犀南方草木狀曰江南桂八九月開花無子此木犀也

丹楓
遠近みづく 枝葉繁茂なり 秋の末紅錦の如く
書房別府

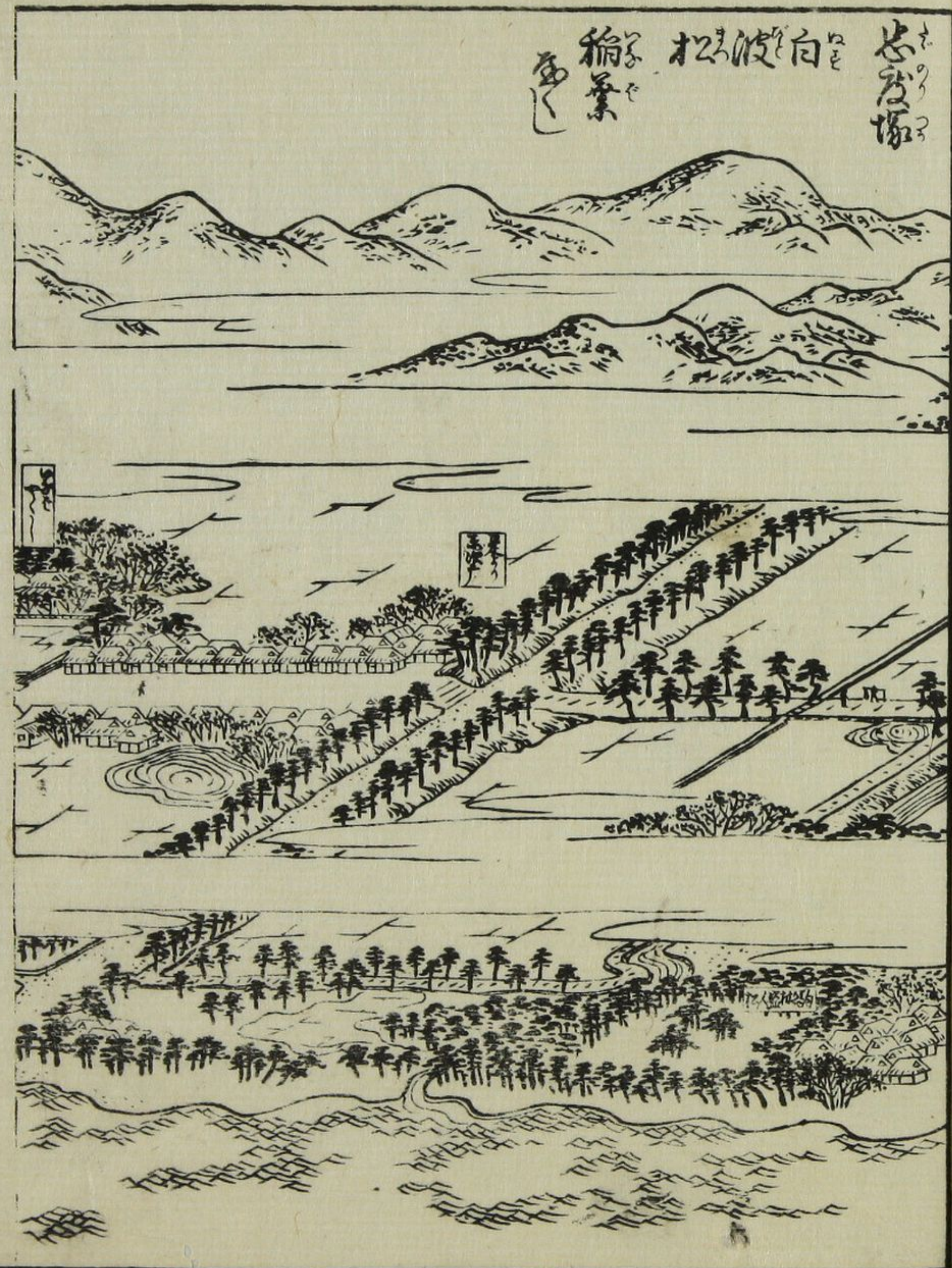
本草ハ釋迦の阿鉢陀の紅葉の南

瑞廣別府

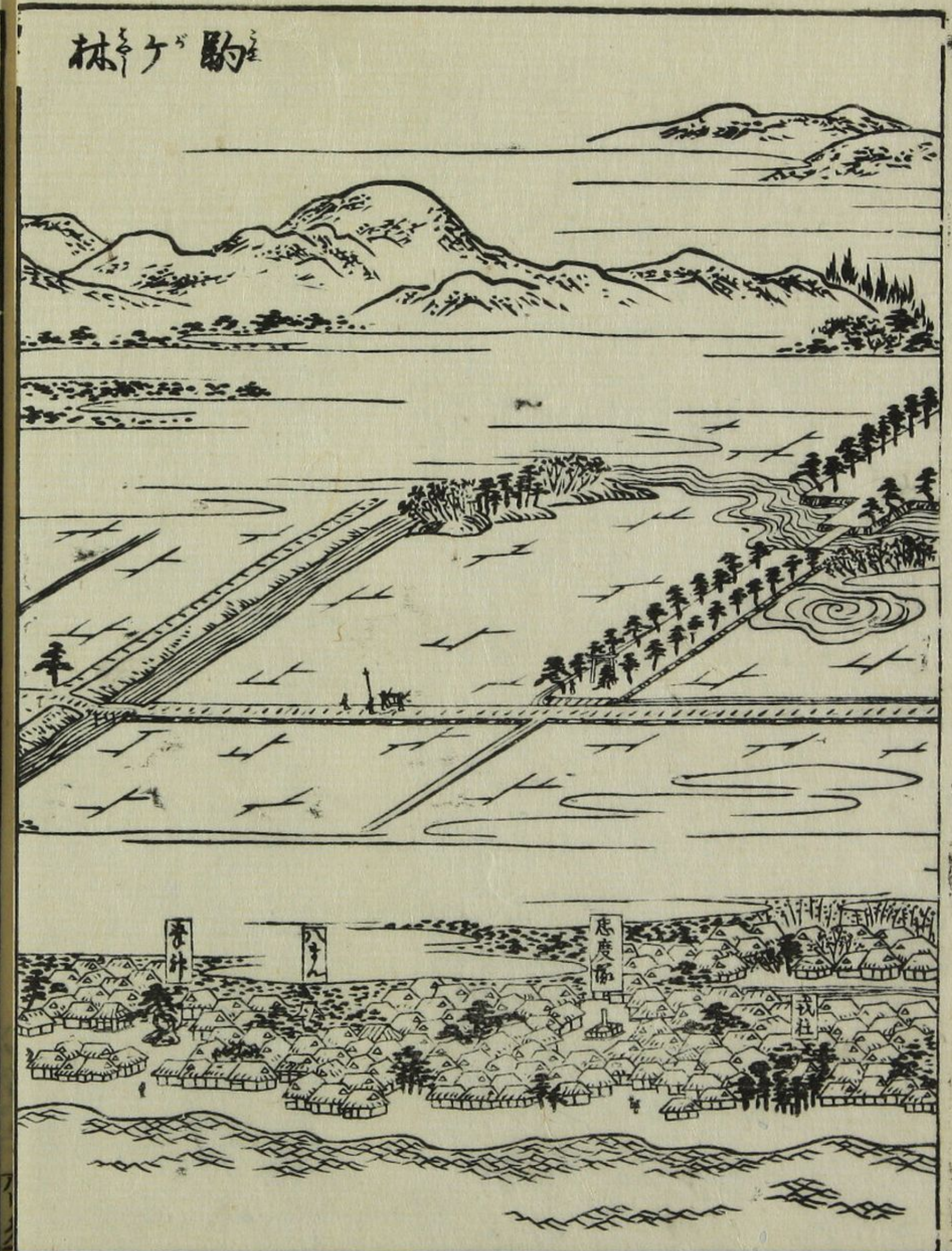
瓢水

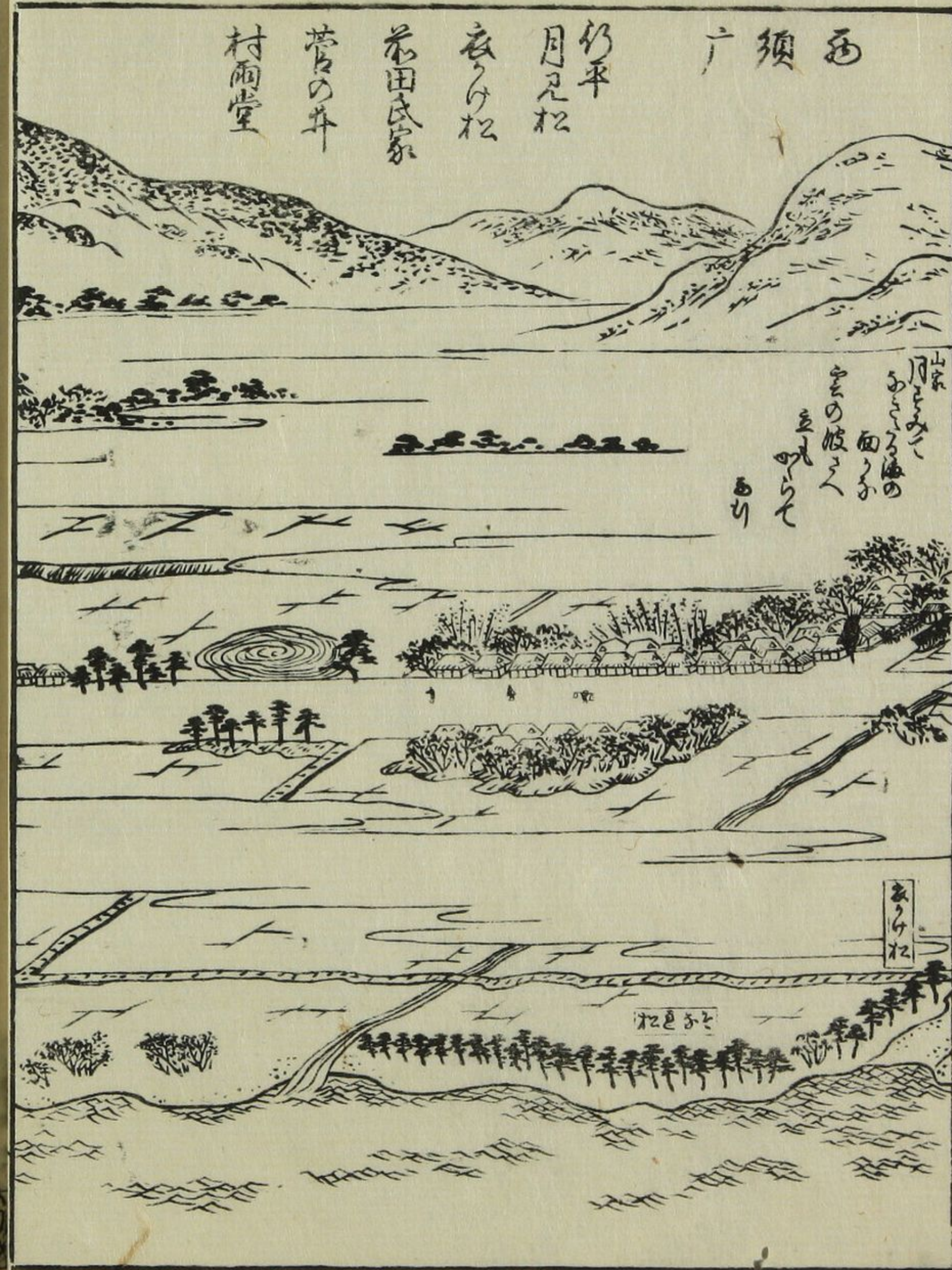
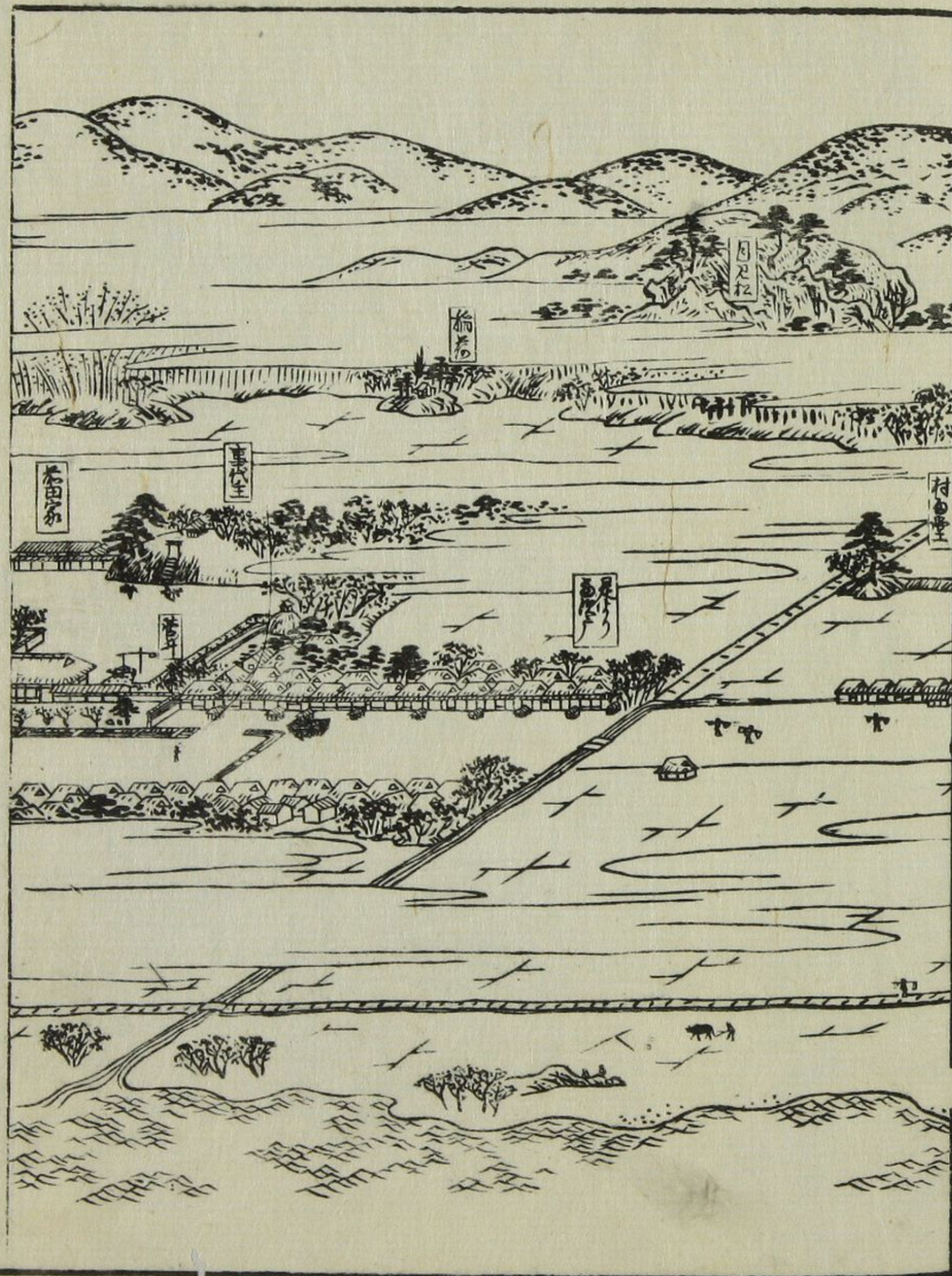


白波松 柳葉 長谷



駒ヶ林





須 廣
 仍平
 月見松
 衣の松
 花田家
 菅の井
 村雨堂

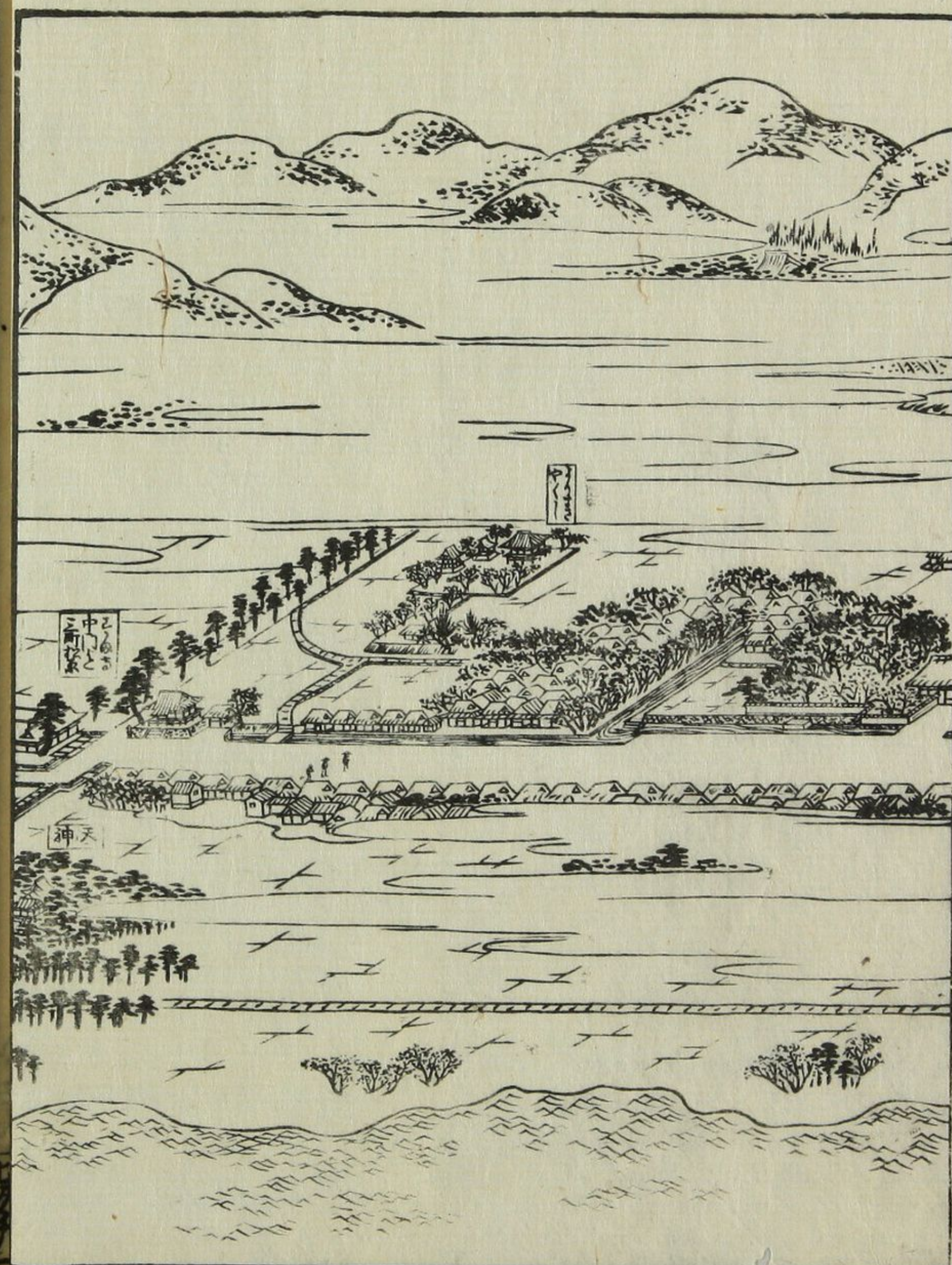
山家
 月見松
 あらゆる海の
 面うか
 まの彼人
 まいりて
 あり

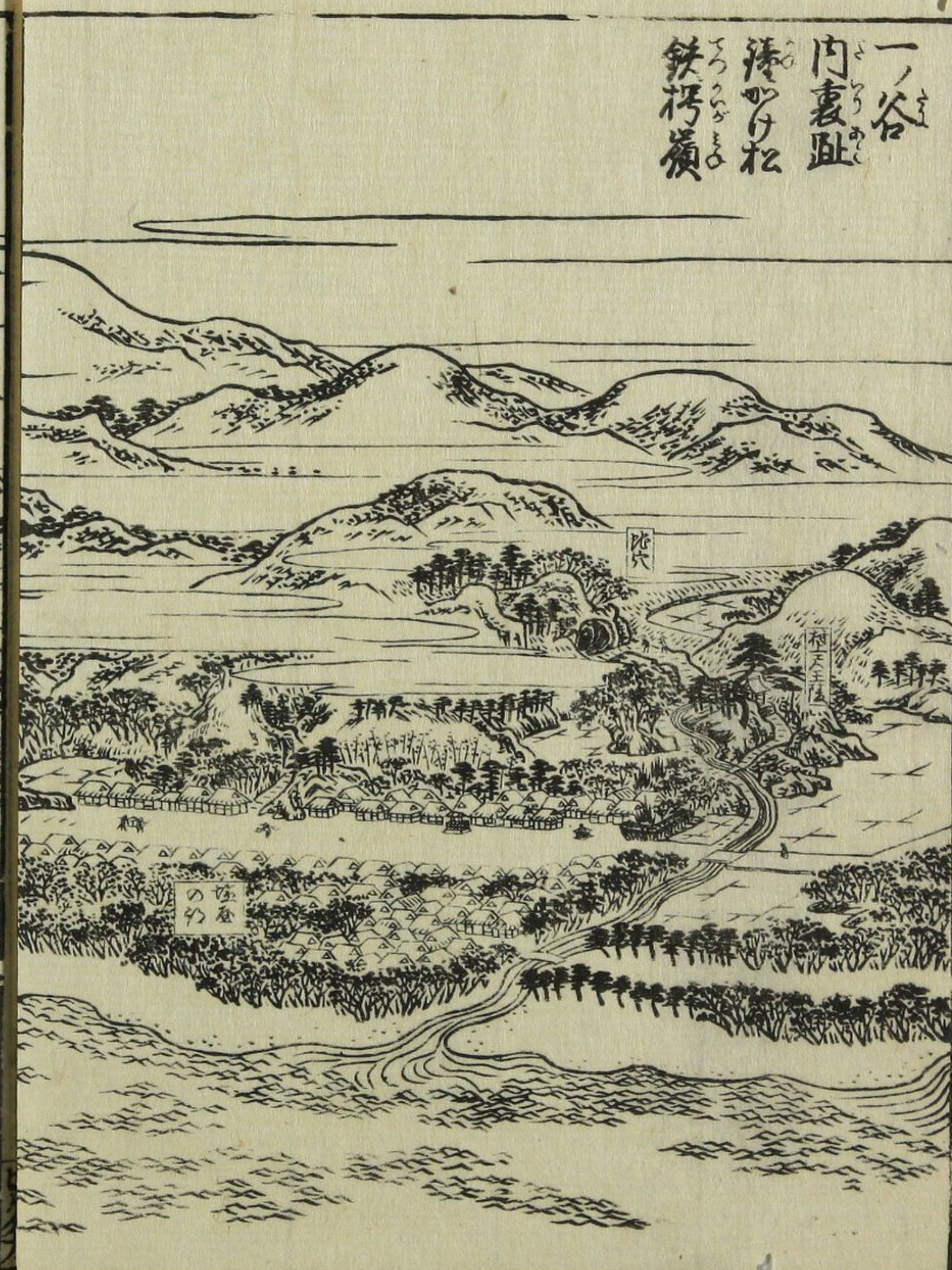
あけね

ねとふと

綱敷大神
 頼政家所
 源光寺
 千手川

新屋拾
 旅屋とて
 美濃の関
 町子もの
 曉の聲
 定家



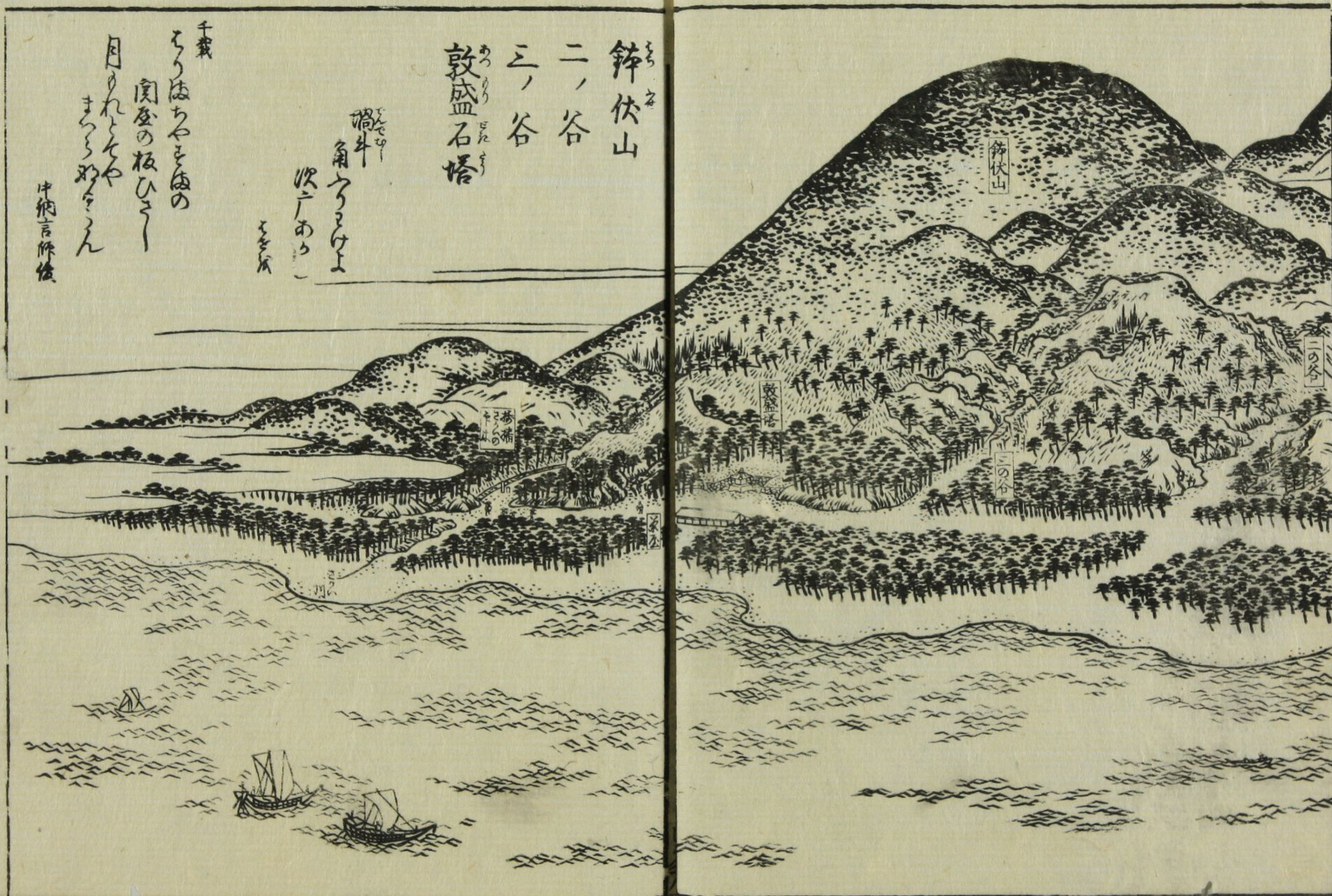


千載
 とうはちやそぬの
 月影の板ひさし
 まつるおん

中納言解後

鈴伏山
 ニノ谷
 三ノ谷
 敦盛石塔

角斗
 角斗
 吹上り





石田の浦
 月夜
 磯の味
 松子の
 松風

須磨里

舊取磨と書次去庫津より西き里すふあり
東次磨 須磨の二村あり 原々今の須磨一帯
赤次磨 いまの過堂村といふ 上古の山陽道の驛と延喜式に
出づり今の農家のいふと海濱ありと漢書にあり
古今 田舎の村なりとありと此のふのふといふとあり
ゆゑふ宮のふのふといふとあり

須磨

つゝとて海士の家だにまじりて人きけく
の満ちむゝとて人のふとありと今いふ里
ふとて海士の家だにまじりて人きけく
たゝん住居のふとて人きけく
故つとてつとて人きけく
ゆゑとてふとて人きけく

あゝとて入る日やと満の秋 徳義

月とててもおととてや次まれば 徳義

ほろくと雨とてふとて乃て改むる 瓢水

須磨

大宮人けとて海士の家だにまじりて人きけく
家毎小 須磨のふとて人きけく

徳義とてとてとてとてとてとて 徳義

名産 磯貝 味噌 又 味噌とてとてとてとてとてとて
農家のふとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
次磨小 須磨のふとて人きけく

佐ねれ身あゝとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
佐ねれ身あゝとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

えとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
えとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

須磨浦

古跡多しといふ 浦小 須磨のふとて人きけく
ありとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
計ひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
拾とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

白波とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
白波とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

須磨の海士とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
須磨の海士とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

新古

日

日

日

日

日

日

日

日

源氏物語

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

あれよりまた光源氏

故人の心とぞいふるものの涙やう海ととく光源氏

うとあひやうあふすはけても月の影のさすれぬ二千里外乃

秋の浦乃あたる潮のめもさふあふまうあまの浦乃

はまのあまの浦乃舟のちち成終る人あなを悲しうなる

されとも海のうらむうより月の名をさあみく紫氏と中秋乃

月乃はるあまの事より書初めひくわかの事にあふひる十六

源氏物語

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

あれよりまた光源氏

あまうむあけたの中ふさほれての月とさすは浦乃かん

をほくこれ秋風と海がききれやわ平の中納言は国吹あゆみや

いひらん浦乃うらむいふいふとさすききえて又かくあまのあま

うは雨の秋あうなる中畧琴とさううささうあふさう我さう

いふさういふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

あまうむあけたの中ふさほれての月とさすは浦乃かん

をほくこれ秋風と海がききれやわ平の中納言は国吹あゆみや

いひらん浦乃うらむいふいふとさすききえて又かくあまのあま

うは雨の秋あうなる中畧琴とさううささうあふさう我さう

いふさういふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

あまうむあけたの中ふさほれての月とさすは浦乃かん

をほくこれ秋風と海がききれやわ平の中納言は国吹あゆみや

いひらん浦乃うらむいふいふとさすききえて又かくあまのあま

うは雨の秋あうなる中畧琴とさううささうあふさう我さう

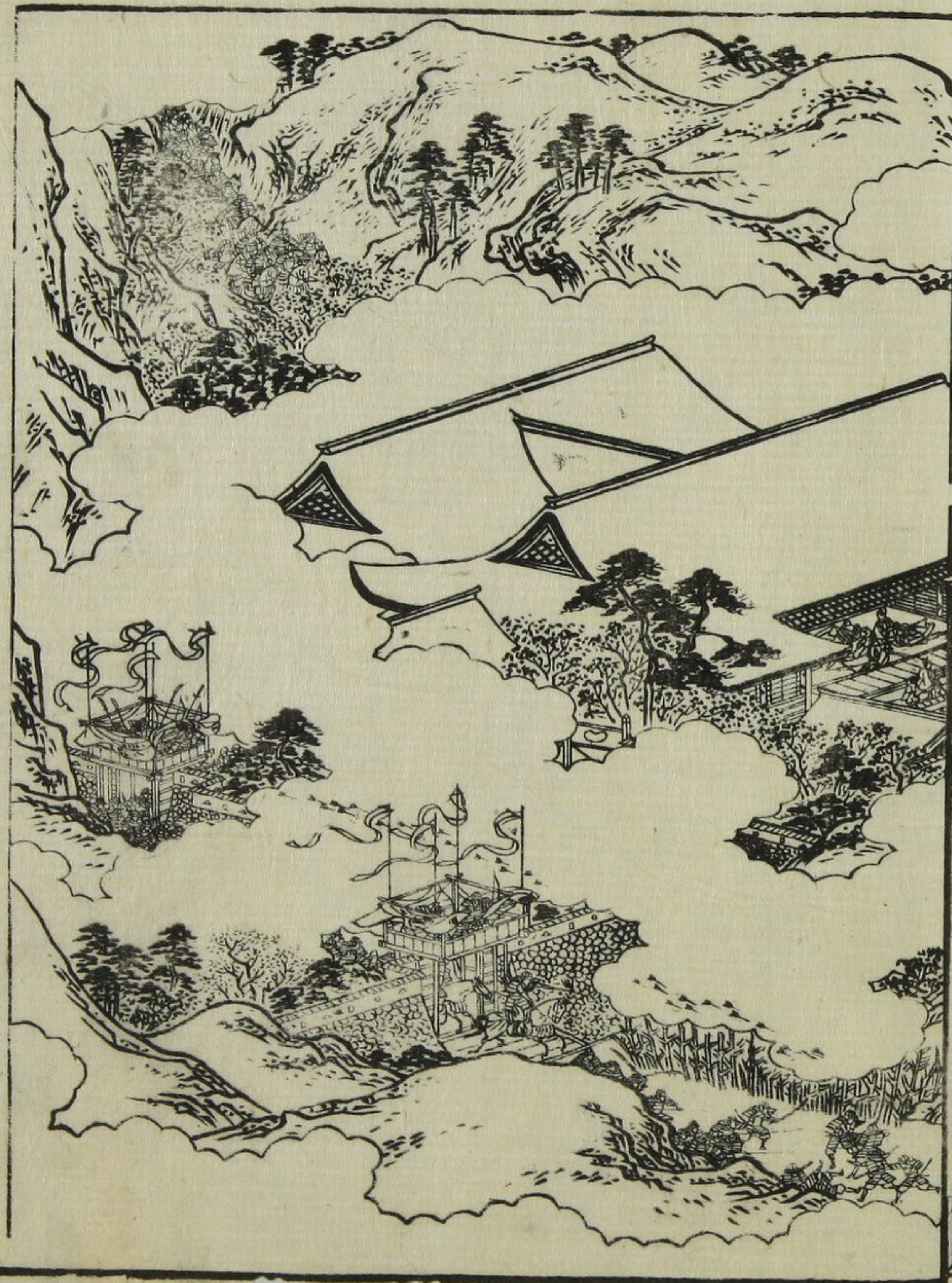
いふさういふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

あまうむあけたの中ふさほれての月とさすは浦乃かん

をほくこれ秋風と海がききれやわ平の中納言は国吹あゆみや

いひらん浦乃うらむいふいふとさすききえて又かくあまのあま

うは雨の秋あうなる中畧琴とさううささうあふさう我さう



平家
一門
足



忠臣の六人
御つゝかき入
いんの様を
明石より



香泉画

行平月見松 東次郎の北尾崎にあり古松の八樹七本ありひくは所
賞月亭なり

夜懸松 東次郎の淡辺にあり松風の謡曲ふ

因幡遠山松 月見の松より寅卯の方半町計ふあり松風村西の北尾
百今離別

立つれいかそのふれ松を松とさう今久とさん 素よりまき

因幡茶師 東次郎のあり

本尊茶師佛 長き尺寺説云行平卿は浦においせとたの念持
仲くしき接ふかの卿のあふよりて名付る因幡

松村雨齋趾 西次郎の東端街道の上ふありいせ地り平卿藏居乃
池といふ新葛蒲小松といふ字今ふあり藤云松風

村ぬの二人へをぬのふあり右井畑の街ありりりまふり
村雨堂といふ今ふありふ

磯 東次郎の浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
磯の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
陳のと替といふ西域小松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼

比 東次郎の浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
比の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼

名倉 東次郎の浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
名倉の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼

網敷天満宮 西次郎の淡辺にあり菅の菰葉、満遷の時時は浦
敷の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼

具 東次郎の浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
具の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼

あふ 東次郎の浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
あふの松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼

白浪の色 東次郎の浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
白浪の色とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼

世須磨記といふ書ありて中ふ次郎とて菅の菰葉、満遷の時時は浦
敷の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
次郎記といふ書ありて中ふ次郎とて菅の菰葉、満遷の時時は浦
敷の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
菅の菰葉、満遷の時時は浦敷の松とてぬの浦に淡松といふ説云乃平卿降洛のとき余彼
俟て只文章のみやひきりたる賞とて

か海をくふ

か
う
れ

孝

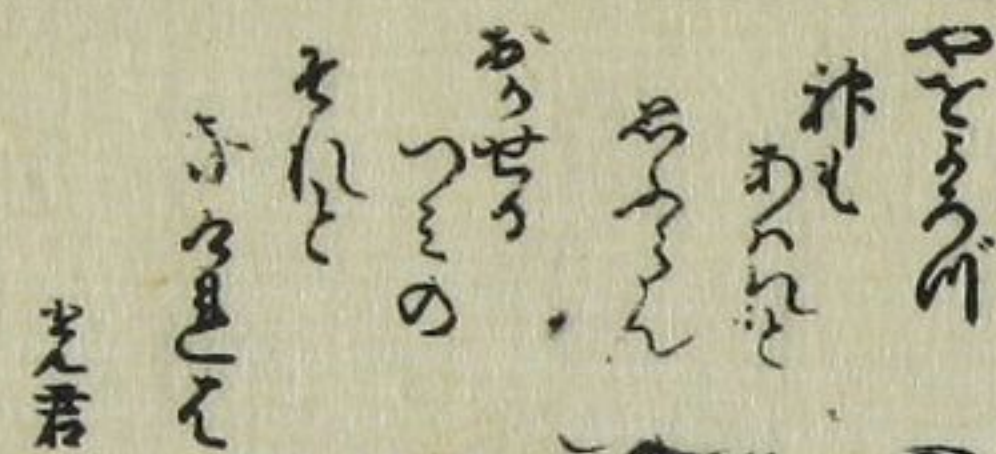
५७

又

卷之九

克君

西村中和画



須磨記

目録
泰亨とてし、飛ぶあゝま。つちねの智乃、年二月中に。不意
あゝま。

大納言

覆氣無

みことのりぞかしこまりあはれいふの申とさるる身あるはけり
 魚いさなたなうちねおちとねんとちになをさう恩目かして右乃おとと之を

心志を。高根を。云々。し。昇れ。との。宣令。せ。み。う。も。わ。た。し。と。

まそのわいふんあぬをむる半ふ足とん悉ちうたみずりうのつとこの

大將
うゑやと。とや、のゆくふうけをうゑ。そのうちうゑのゆるする半のやと

ずうと邪ん。まゝて邪と死。名の後世をまゝとみふり。まの个せん

輩への親不孝な事を祈りけうと云ふ。それこそ

本意といふや。長う身のそたとて終つた幸計のみした。却却

死あゝ君なううふおひえむうめたふひうとととあゝとと

うむ。魚くもわにあらふとて大いあるをみせしめ

そらうなる海ふうくを吹えしもいふを。あきとふ思ひうけんあふ

みけかうく。文章得業のお生ねと家のゆやとゆけまも

かゝるも。そのつうときや一平をたりぐ今のさちみのおつう

家人めくものさへかやうなつらさやいふに及ばぬ

形御んあれひとと身一人のいさそめくはきほもふせめく乃くもの

せうんおん。おんのちおんの所へ。四つ目の浪が飛ぶ。大空乃

越子より仕度のいふ所といふも。そのうきなりと傳。その海とさへむ。

車の上より。ふくむと家内代わひする車ののみくたふよて取る

卒。さうはなぐよ板中の曉れろこひかく満ちのる年々あけく

一七 形んはく事なり道なり一なる心志を以て之とす

うそのふりうねる事のはなと夢うつのうらみもくはらぬぞ

車のおもひ^時あふもてさふも名裳とてけりほそをぢうの原

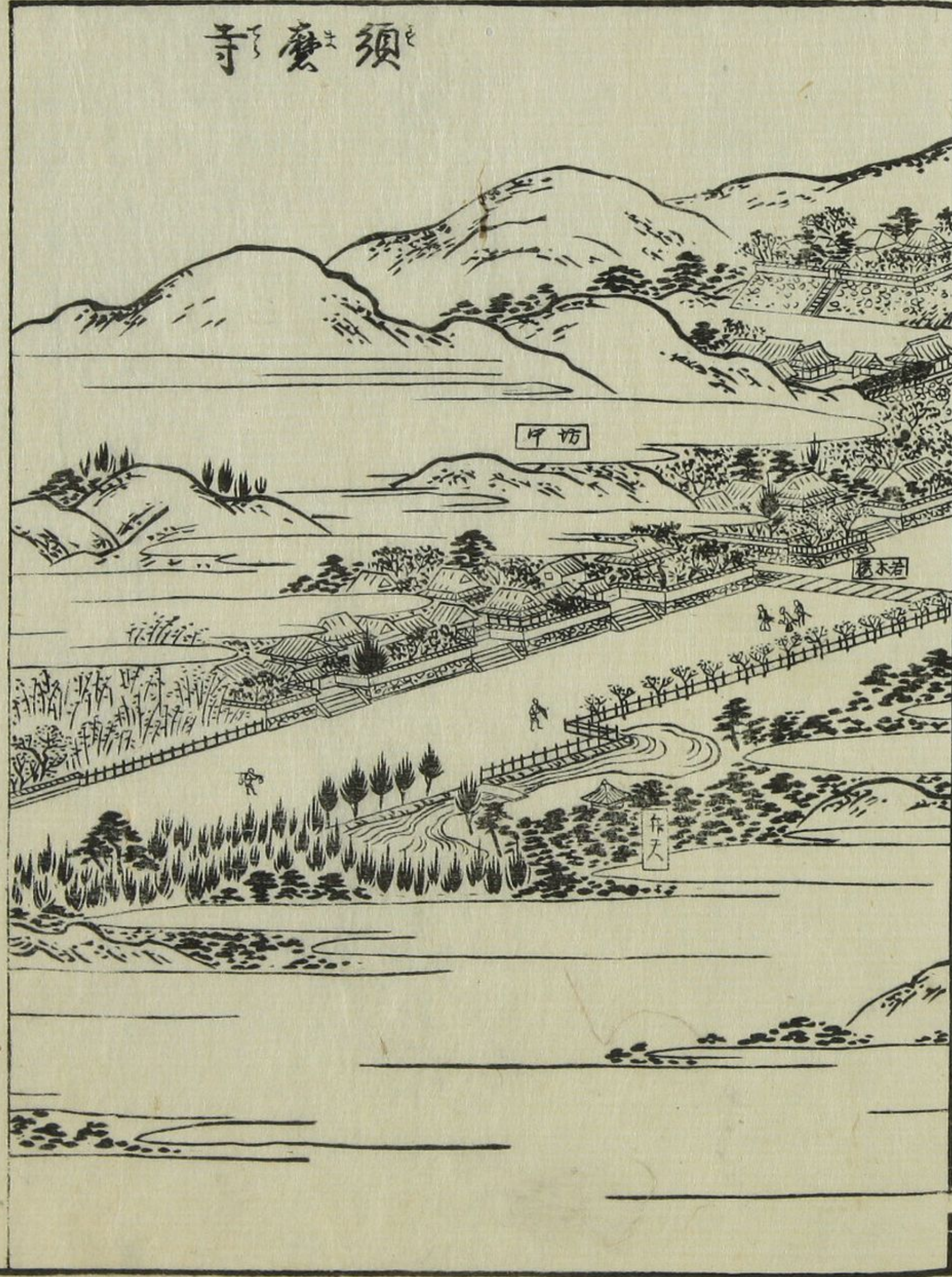
[illegible]

おのゝとて所をもカ土氣と考へ上中下のたゞのたゞの人

う哥ややういのねえみーういさういさひあひく
はういさふうう舞ーうううなむーういのねあひうー。
はううううう今舞の身お思ひあひさうあうていーも
とちある事やけは身のおくと情をさうううう思ひさうさ
のさゆーさうその心おとらあーんや。うやねのすう。家のひま
このいけねあひ。うーうううううう。う歌とさうれあ
ふふとん。うーてもうさういさは我ひまううーもいせ乃人
とちおほとねあさう。う人の心うういのううーせぬ。事ち
いさうーとねをさうーはくさ。清うれねーうう策ふく木さ
えうん。かりてはうう。君の心かり人のようーん。外のうひ
うさうさうとねくさ。あんとおほけせん。事をううせんやい。さけ
あたらんが。いふお女も。ふはねてさみづううさうさう人たと
あひあひのむーあうううふのううん。さうーううたをせてうせん

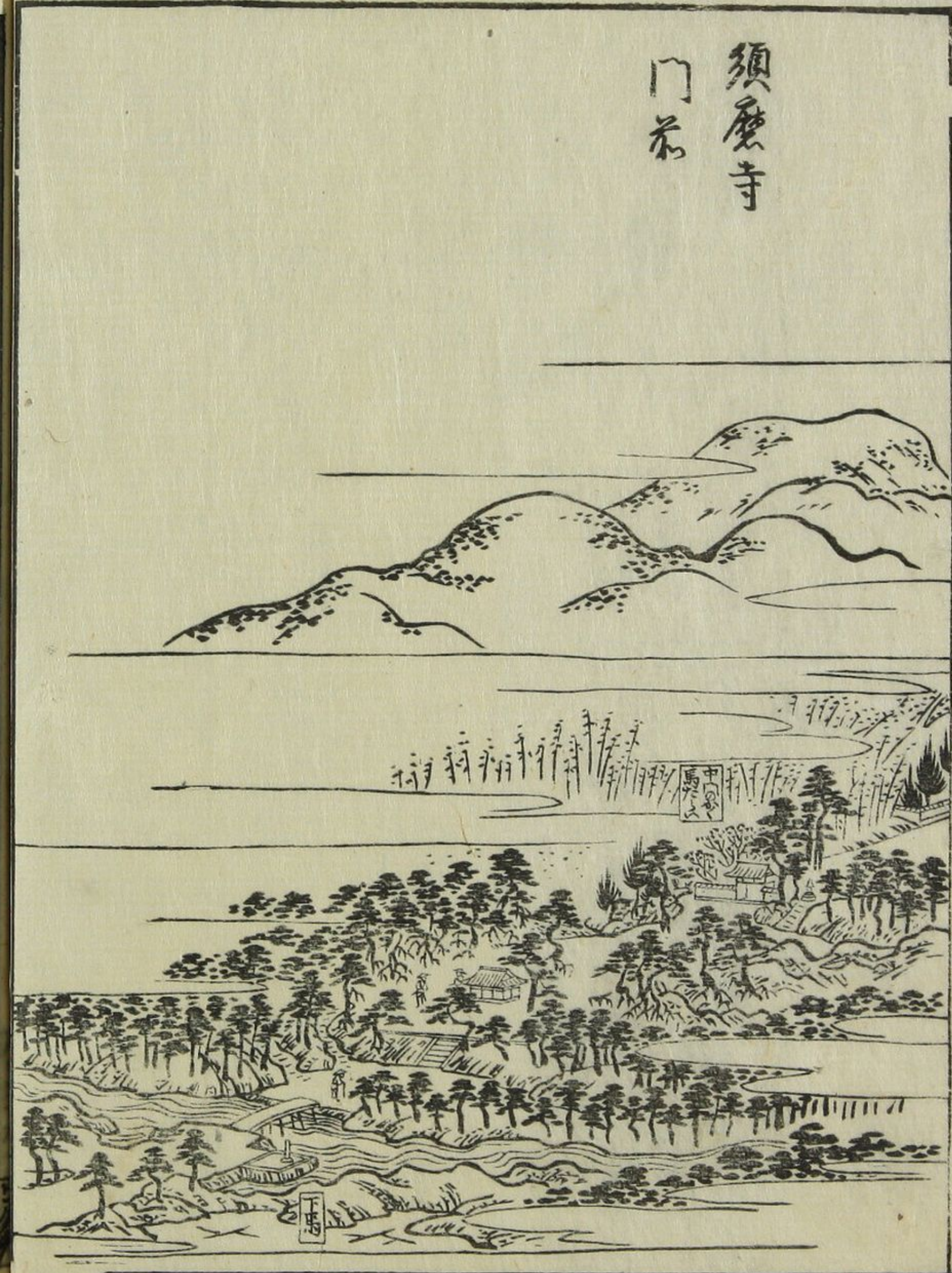
事のきこひあううふつけて。さあねさ心のねみいさのううあうん。
白太まといふ男侍智うう年ーといさう。お家のうーさあうお女
うれなううとらとあんせーふ。けとね又例のちきうさうとてあ
まも。ううう例の所とさみの思事の中うあう。あーさみおと
あめんとさうさう。はねうううひとあうあひさう事
もあうて。舞升の常樂院の僧房ふううう。あーさ月ゆたかー
うううひて。さの單縁つけ庭も暖と報て白太廣う困流帶。石池
とさのせうもあうふとー。はうあたさううさうさうさういふ
ふのあうむ。このねあうあふさう。さうーらのうちかくさうある
ふの句とさう紙お書くとおーせあけた。あーふとみふあえんぬ。
あはれおまれうーさうさうも白ひさあううて。さふはりん。あ
ふうさ。あひさの名残。花のうねーさ。あさううう人あふ例のむさこ
あうさ。あをさう紙お酒とー。さうてうううーさうさうこ

須磨寺



須磨寺

門前



事代主神祠

又神功皇后所社ありむり
皇太后神代主神祠
其祠記云分明なりと云ふ
神代主神祠
退治の真如ありと云ふ
紙云ふ一洋なり

土佐計小や片や土佐の初やは

湯竿の糸にさりかや夏乃月

湯人ふるるびくろ麻すあ

菅之井

日所菅田氏の菅之井あり
菅田氏の菅之井あり
菅田氏の菅之井あり

菅の井とて名酒と稱ふ

菅の井とて名酒と稱ふ

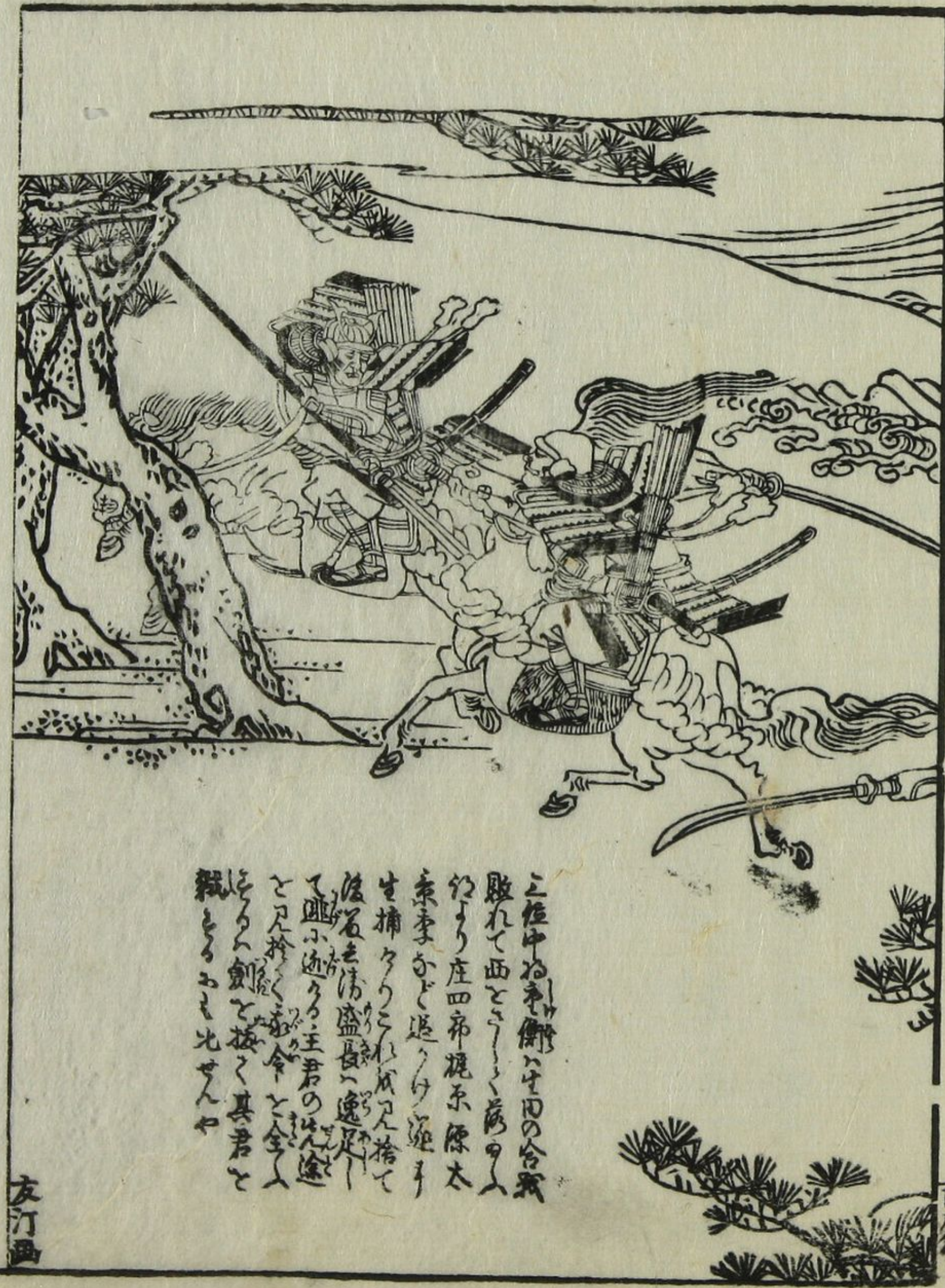
頼政薬師

菅田の薬師寺の入口あり
菅田の薬師寺の入口あり
菅田の薬師寺の入口あり

平尊業師仰

菅田の平尊業師仰
菅田の平尊業師仰
菅田の平尊業師仰

中將を衡口
須磨浦
源氏の武士
やういふ人



三任中將を衡口
源氏を西とて
約より庄四郎源太
素季など追う
生捕りたり成
後名を清盛長
て追ふ跡より
と見ゆる主君
を人剣とて
親もふとせしや

飛く下正あり何くとも侍仕候らんぞりのとやとて我素
うらう馬小控素遠生捕まり鞍の若臨小綿付奉る我身の
素替ふ素て味方の陣へ入る乳ま子の盛長は其をばあ
りく逃延く後多々然也法師の庵中法橋が湯で居るを
法橋は後後家の尼との新詔の若小都へ上る小伴と上る
空憎や後藤兵衛盛長は二位中将も不便ふをひはるに
一筋小如いふもあへて思ひ寄ぬ後家尼との伴と上る
とく皆凡弾がぞとる盛長も流石耻しうと思われん
顔小やうとて聞

うの盛物太弟の主君和盛と助け和章の先途をえん令と忠小換
て名名成萬代小揚の後藤盛長は主君庸と成る人となり
全う一魚名と後世汚次郎の高集彌其君照公成就しあふ
盛長小比せんや君子成人之美不成人之惡小人反是とて
の誠也

上野山祥福寺

あ次上野山あり街道より松原二町と行く格あり
それより二王門小至る風流の格あり古義真言宗

本尊聖觀者

海中より出現
海長三入みす和田作傳の

護摩堂

本堂の東小あり終世権現王置権現
不初号成安次鎮守祠赤財天成あり

神功帝釣竿竹

神堂の乾小あり漢竹と義経腰掛松
本堂のあり

馬盤額

中門小掲る二王門
上野山と書次令剛力士の二天成安次
運慶法慶の他

十王堂

あ次入口小什寶
あにあり

敦盛赤旗名跡

法然上人等為敦盛空頼藤清菩提書之源室
脇ありあき九葉あきをてつと法隆の蓮ふり小せう

保呂衣名跡

蓮生法師等脇あり
法の水とみと観て書と心行具足は法陀佛力

敦盛幼少の跡

題をのる
やたどらまてもあきとさうのさあれたるの白鳥

敦盛画影

然谷直実
あつりのあきとせの久えとくくうれとやあきの風

青葉笛

弘法大師の他
ふりひとさるふきとて竹竹のうれむうとあひひこそ

寺説曰あ山の寶あり貞享年中江府芝寶藏寺よりあに賜贈しとそ
又備藩常山先生東行筆記曰今須磨寺小敦盛の笛とく傳へられとそ

節も父經基の方へ送りて、さき多事盛衰記ふるべし、たたぬ實物
若木櫻制れ辨慶筆

此乃江南不空也一枝於折盜之輩者
任天永紅葉之例伐一枝者可勞一指

此乃江南不空也一枝於折盜之輩者
任天永紅葉之例伐一枝者可勞一指
此乃江南不空也一枝於折盜之輩者
任天永紅葉之例伐一枝者可勞一指

ふりりわん
ふりりわん
ふりりわん
ふりりわん

楊花あふ世のあふり捨てしもの園をのびるらん 定家

まふふの浪速と去来十有餘里ありて須磨里大徳の聖跡より
後より群衆と擁一花の潮汐と流るる緑波大不接一漢舟商船
王者の樓船来往一簫鼓の若柳歌の聲白鷗の聲の波に
心くれ其風光妙ありて予言も及ばぬむ 光孝天皇
の所時海中夜毎ふ光有る雲端と照次漢父細と下りたれと
梅極木の親者成得る昂小字成建とこれ成安並に其墨應
つちあふりてその功驗あり信をれし示現あり因茲朝廷
小達一仁和二年文鏡上人小勅一々寶殿成營に丹を欄絢
として林岳小照映一遂小梵刹とある事今小至る八百餘年
なり厥后久壽の元源三位頼政とて淨依一殿堂支提鎮守等
と名を喚びて煥然と一刹を於是山川色成坊壘感蓋懺悔
世須磨とて呼ぶは朱の貴賤あふ清世といふ事あり

次上野

とぬの里れ山廻ふあり
田園をりぬる人

影主載

夫本

浪かけぬとぬの上野れ落ふとぬ旅夜ふ耶

彦乃

夫本

鈴舟のよとる者やとりらん次上野の上野小稚子唱と

歌照

後の山

上野よりぬる山とぬる後の山とぬる
土人の稲葉山とぬる中ふあり

とぬる

煙いとぬるさたきとぬるやあふの煙やとぬるさたきとぬる

おつとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬる

源氏君

ふとのいほふとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬる

あふとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬる

琴

惟光

あふとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬる

やれとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬる

下巻

夫本

千首

月あつとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬる

家長

さふとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬるさたきとぬる

為甲



就中花岡基俊は平家軍將の
中少將と勇力ふふ六七十人
力ありといふ八割の力
猪股小六と捕ふかき人
着とんととんとと猪股
うき命と助と基俊と討
平家の運の傾くあつとや

あつとや

光源氏舊跡

光源氏舊跡 次廣の南有光寺といふ寺額寺門跡未だ遺場あり
此地より源氏お居り候に双紙あれを古跡のありて
永正年中の建立の道場とぞ什物不詳な敷あり
芭蕉翁句碑 源光寺門ありて近年豊後能士
芳蘿坊より移建内

足つて世は足れを次廣の秋

足つて世は足れを次廣の秋 源光寺境内に旧庭遺蹟あり人はいづれに
風月亭仙雲跡 源光寺境内に旧庭遺蹟あり人はいづれに

月ふけ次廣の上世其秋乃風尾花の波ふはく浦浪

月ふけ次廣の上世其秋乃風尾花の波ふはく浦浪 加雲
近衛人傳云 源光寺の南に安藝國廣瀬の人の奇好ありて
儀同三司實隆公の學人ありて名山藝地ありてふたたび
佐助と定められ世に今ありてその名を自も
ありてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて
救世菩薩の像ありて其畫告ふより河内國弘川寺なりて先傳
よりそとてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて
とるのありてと建てる其寺に有る南條とて櫻とて堂に
造立し一層も山中に藤原氏に傳ひて後りて其時
のあり
並ありてむむの人のれは弘川さふみそ乃其
その庭のひろさ一や二ひに過ぎれ人々今少く
ひりてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて

はふのありてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて
吾人のせと一日の指ふ花飯炊く形に除たありてそとて
小ありてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて
影ありてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて

お居りてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて
次廣の浦に有る時久しく級なる地電氣興くちなるを
や
級なる地電氣興くちなるを
是延享四年卯正月
十五日に自記ふ

我再興せしむるも又たりの絶たれぬを
我再興せしむるも又たりの絶たれぬを
我再興せしむるも又たりの絶たれぬを
我再興せしむるも又たりの絶たれぬを

はく
後世に秋ありてふたたびの仙雲跡といふ人の上人の墓跡とてありて

のの 菅原の奥のありて後々ありて其外高野の奥龍門の跡
のの 菅原の奥のありて後々ありて其外高野の奥龍門の跡
のの 菅原の奥のありて後々ありて其外高野の奥龍門の跡
のの 菅原の奥のありて後々ありて其外高野の奥龍門の跡

次廣源江

次廣源江 ありて名のとて
ありて名のとて
ありて名のとて
ありて名のとて

万葉

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

六世

源にふさ原ふさるうた著うた身ふたなりてんか

後金

須磨園

延喜式出古縁原光古の西街道のた右ふ

王景

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

家茂

後金

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

定家

新古

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

定家

ふる川

関原の四谷のあふあり一説関守川又路守川又攝津志

ふる川

速瀬溪とありなり其是非なりあふに頼朝の古

ふる川

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

兼昌

村上帝

ふる川の西端ふあり上ふ小祠あり天皇の尊とある

村上帝

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

龍宮

ふる川とありふる川とありふる川とありふる川とあり

龍宮

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

蛇窟

上ふ橋の西端ふあり上ふ小祠あり天皇の尊とある

蛇窟

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

一谷

あつ原まの源にふさるうた著うた身ふたなりてんか

籌策小羅く義臣もあつ小喪ひ功名も一時の最とありあつ
るひ人もあつと惣ひく懐旧成述古戰場とありあつ
あつん

祝氛一抹紫微星海岸忍留舟翰青

邦美

冠蓋春寒風度谷劍瓊雪暗夜過庭

鄧軍蜀嶺九天下宋主崖山幾月經

赤幟光消空返炤無人對酒泣新亭

内裏蹟一谷の上ふありあつて次郎の上地といふ古松二十本計あり

漆懸一谷の半腰ありあつて道車古松の松今植たり

鉄枵一谷の松伐く額板と一谷田氏の形に掛る

鉄枵一谷の松伐く額板と一谷田氏の形に掛る

登鐵枵峯二絶句

鉄騎三千雲厭山翠華一去慘龍顔

邦美

朦朧赤幟春風色留在夕陽松嶼間

古壘鳥啼不見人嶺雲澗水共傷春

同

誰知夜半風前笛吹落梅花作戰塵

鴨城鐵枵嶺の山ありあつて道車古松の松今植たり

二谷一谷よりあつて所ありあつて谷の奥に所横中八向ありあつて

二谷二谷よりあつて所ありあつて谷の奥に所横中十九向ありあつて

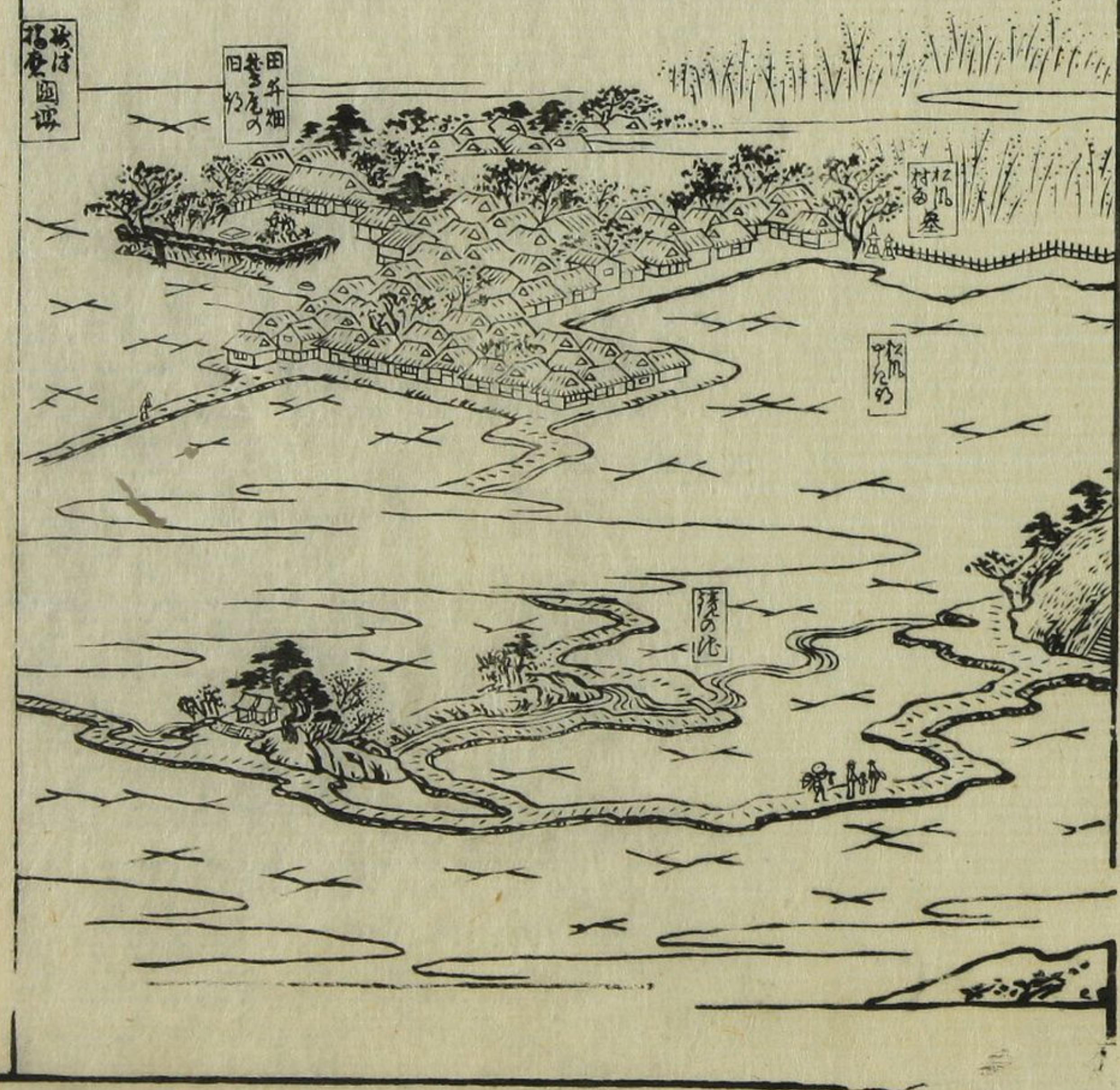
二谷二谷よりあつて所ありあつて谷の奥に所横中十九向ありあつて

鉢伏山二谷の上ありあつて俗俗云神功皇后の薨成ありあつて

然谷平山二谷の奥ありあつて然谷平山ありあつて

然谷平山二谷の奥ありあつて然谷平山ありあつて

田井畑
 松尾村の墓
 日屋浦址
 鷺尾倉屋
 八幡宮
 鏡の池



盛石塔 三谷より西き町あり五輪の形小梵字あり塔實に鎌倉
北條西園寺入道平貞時平家一門我北に共福の福ありに建り所
の代より敦盛塔と称し多々あり今ハ世俗みか敦盛
と称しひつるも多く是なり

敦盛石塔

一
体

著々 絶妙 青葉の 見えー おー 竹

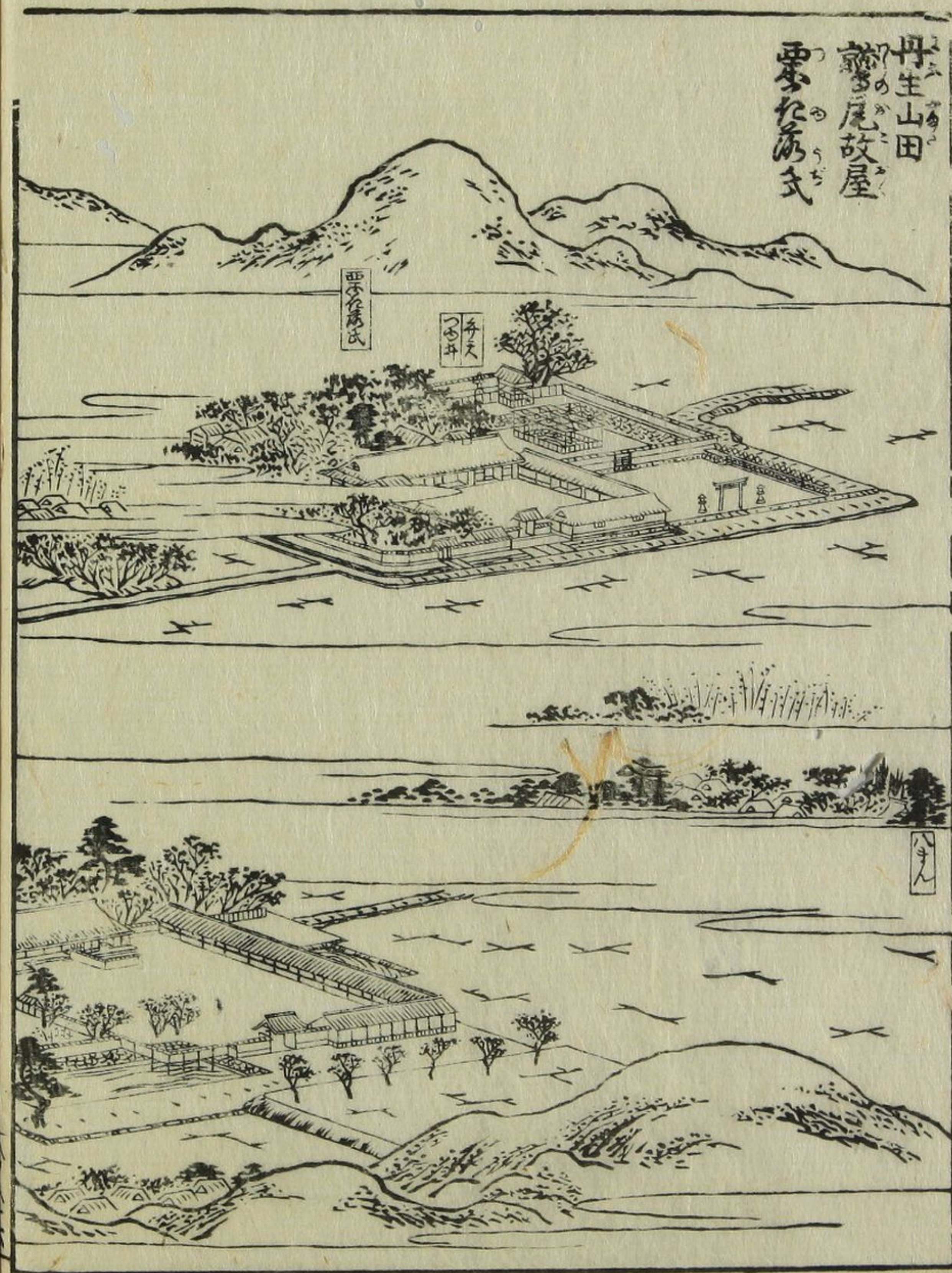
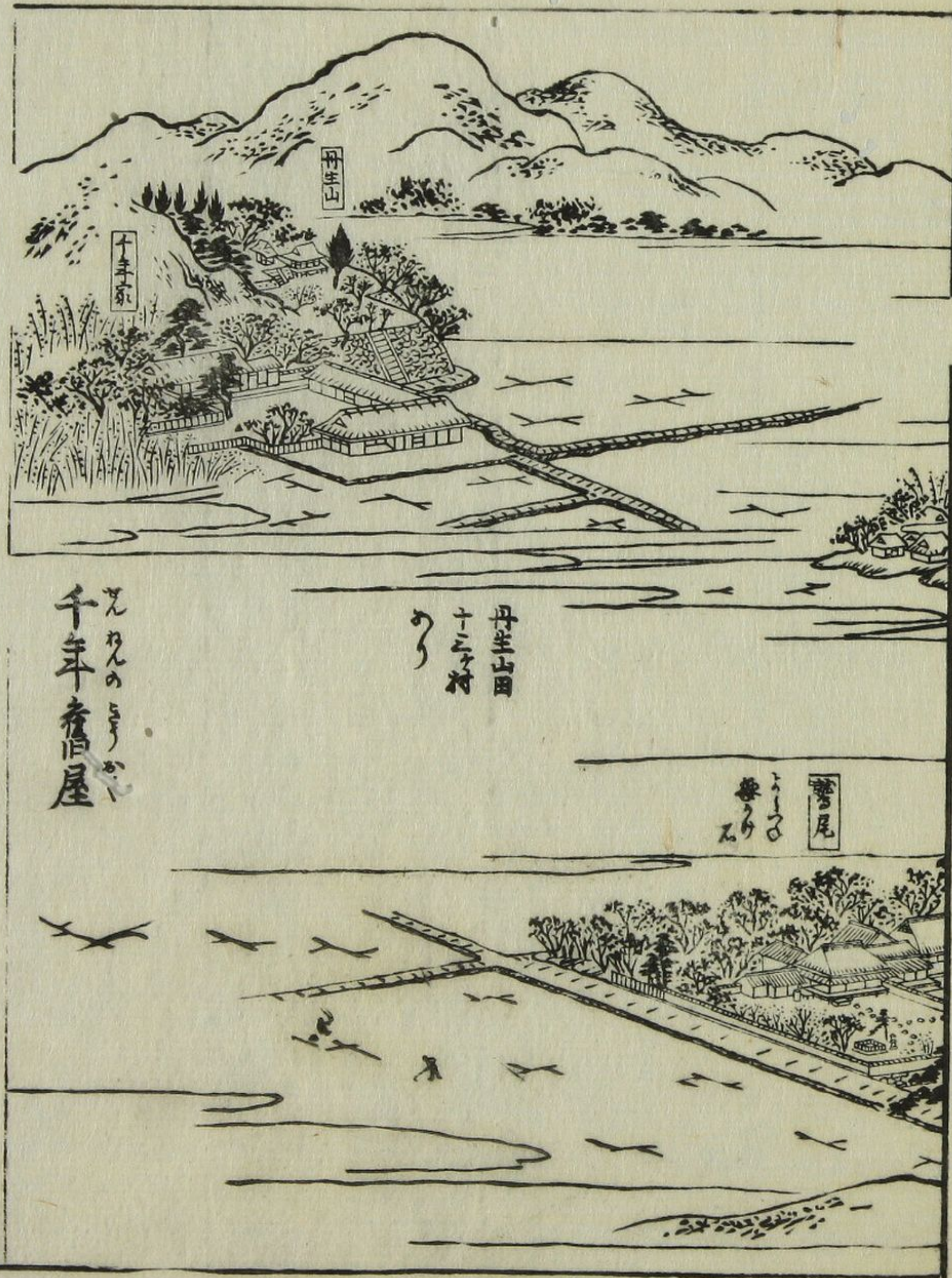
螢火やまゝく麻比風乃あ

川に
 谷より
 五町あり
 海に
 播磨の
 其傍に
 頭目成
 三本の
 打込
 少延
 後、
 播磨の
 海に
 頭目成
 三本の
 打込
 少延
 貴、
 播磨の
 海に
 頭目成
 三本の
 打込
 少延

次より左井細一越る峠といふ嘉永合我の時ありて
 の狼煙と上ナリよりひな名成へ又田井細嶺といふ
 沢の北の山中より次より五所これ杉藩乃
 栗村より古く左原より愛知へ通く山中へ入ひ田井細へ

古道氣とて
 風雨入墓
 田井細の村中
 村長の細
 地の安
 細
 古老

松風村雨二人墓
田井細の村中ふありけ地の客成細庵とり入古老云
あり次戸の浦へ潮と汲ふ通ひ一対在系行平卿二人と云れ
松風村ありて海濱に潮と汲ふ通ひ一対在系行平卿二人と云れ
危て今も海濱に潮と汲ふ通ひ一対在系行平卿二人と云れ
これく其代もけ山民陸家郷つる半おく暇毎ふ潮かふ汲
古今の用成あり半
古今の墓あり



田井細八幡宮

田井細村の入口に上ふあり
又舊年の下十歩許藁の内に土神乃祠あり
又所の生土神とて例祭八月

鏡池

八幡宮の下は御計程小あり
藤云松岡村ありと云く
為渡

田井 畑 鷲 尾 旧 屋

田年細の村長ふ鷲尾次郎判官殿ふ鷲越の邊路
初先一各合衆の時九郎判官殿ふ鷲越の邊路

堯

[illegible]

等

華山の模倣又唯論偏立
あれあり

空穗

征夫十六筋

丹生山田莊

上谷上 下谷上 原野 福地 山中 中村 坂下 東下村 西下村

丹生山明要寺

の^に源^{しん}半^{はん}穀^{こく}十^{じゅう}斛^{こく}其^{その}北^{きた}界^{かい}水^{すい}槽^{そう}瓦^か空^{くう}に

架一流と通に槽の長サ六十餘丈風氣を寄て下流ハ
村公庵と播別不入當寺ひうへ大度うく諸堂嚴重

智勝院舟井坊 大光院尾崎坊 守子

本尊十一面觀世音

聖明王のなみ
 崇山開基ハ
 我明天皇の御宇百
 聖明王のなみ
 崇山開基ハ
 我明天皇の御宇百

走らんともく無船ふきく我國赤石の浦ふ翁殿と付小鬘髪ふ
事瓜載さうろ老翁忽然とあり汝へ日本小有縁の地
あり是より世實に密ツク名山ありとく櫻姑成投らけ
荳肥り者これ成慕ふくは山紅花るふ紫雲衫になあ
びと若樂すへた除けれを恭礼喝作に其時老翁忽ち悲
の号係と現れ光と放けを男共所安成勝る賜物して
本番と作れ

鎮守 山王権現牛頭天王
な緋冠をまゐる

十王堂

中多地藏菩薩
脇士小十王と安ん
護法長神祠
本地人日如来と
安ん

大師堂

弘法大師成安次
護摩堂より云

養堂

其外客殿厨等あり

安養寺

同莊原也村小あり真言宗

本尊大日如來

伴工湛慶の作

鎮守天王祠

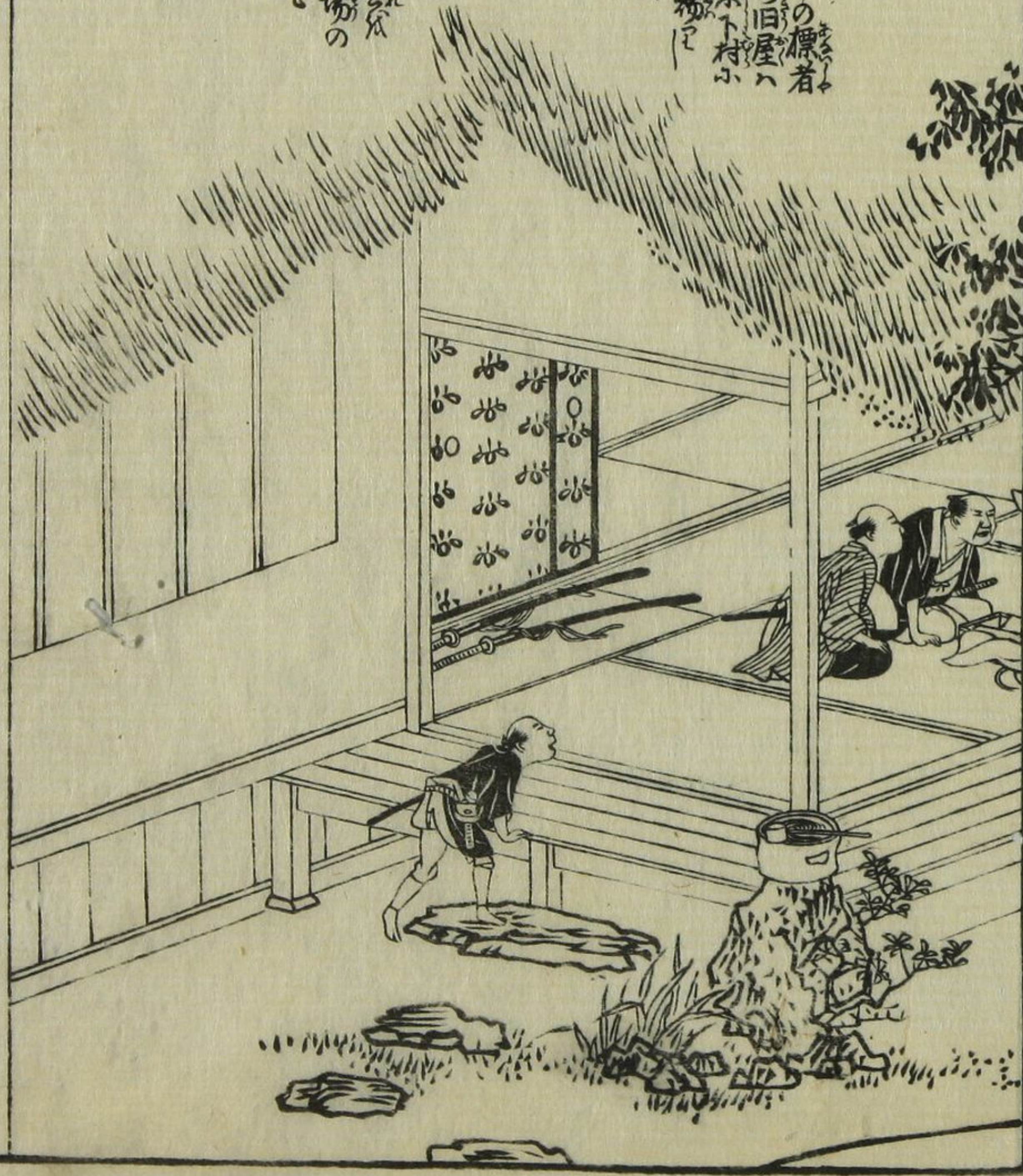
此所の生土神といふ。傍小金鼓堂あり。

八幡宮

同莊中村あり生土神と例系九月十一日長徳元年
五月十六日防別基登法師小神能あり

卷之六

一谷通流一の標者
 丹生山田東下村
 あり其村賜に
 太刀二振成
 什宝と成
 又願小
 腰ある
 あり其
 士の
 ころまう
 實ト古
 蹟とるも
 まりた



石田友汀画

一谷へ落さうと思ふに如何に努力を以て候ふに凡二十丈の谷
十五丈の岩崎ありとは容易人の通ふ處と雖も候に其
上城の内より落穴あり堀小蓋とも植て待進させ候に蓋て
所馬を思ふも寄らねと申すに御曹司を以て候に鹿の
通ふ處に候に通ひ候世間より暖か候に草の深小卧んと
播磨の鹿に丹波に就世間より寒あり候に若お合ふ合ふと
丹波の鹿に播磨の印南野に就作と申すに御曹司馬場を
ある處に通ふと所を馬の通ふとて播磨有とては應に
案内者せと宣ひに身年老て如何にも叶ひ候すと申次
細汝ふ子に無叶と云ふに然王とて生年十八歳に成る
小冠者に奉侍御曹司應に警とて取上とて給ふ父に警尾
庄司武久と云同あれは警尾三郎武久と名乗て一谷乃
先おせと案内者ふと具せられと平家とて源氏の代に

成る後鎌倉殿と中違へて奥州へ下り討たれし時警尾三郎
武久と名乗て一所に死なれり

山王祠 日莊坂村小ありあり丹生谷 府之井 社ありあり

若一王子祠 日莊坂村小あり上梁文云永仁五年橋長綱建立應永十五年

八王子祠 日莊坂村小あり上梁文云

白龍辨財天祠 日莊坂村小あり

栗花落井 社ありあり

の祖 山田郡司真備と云人

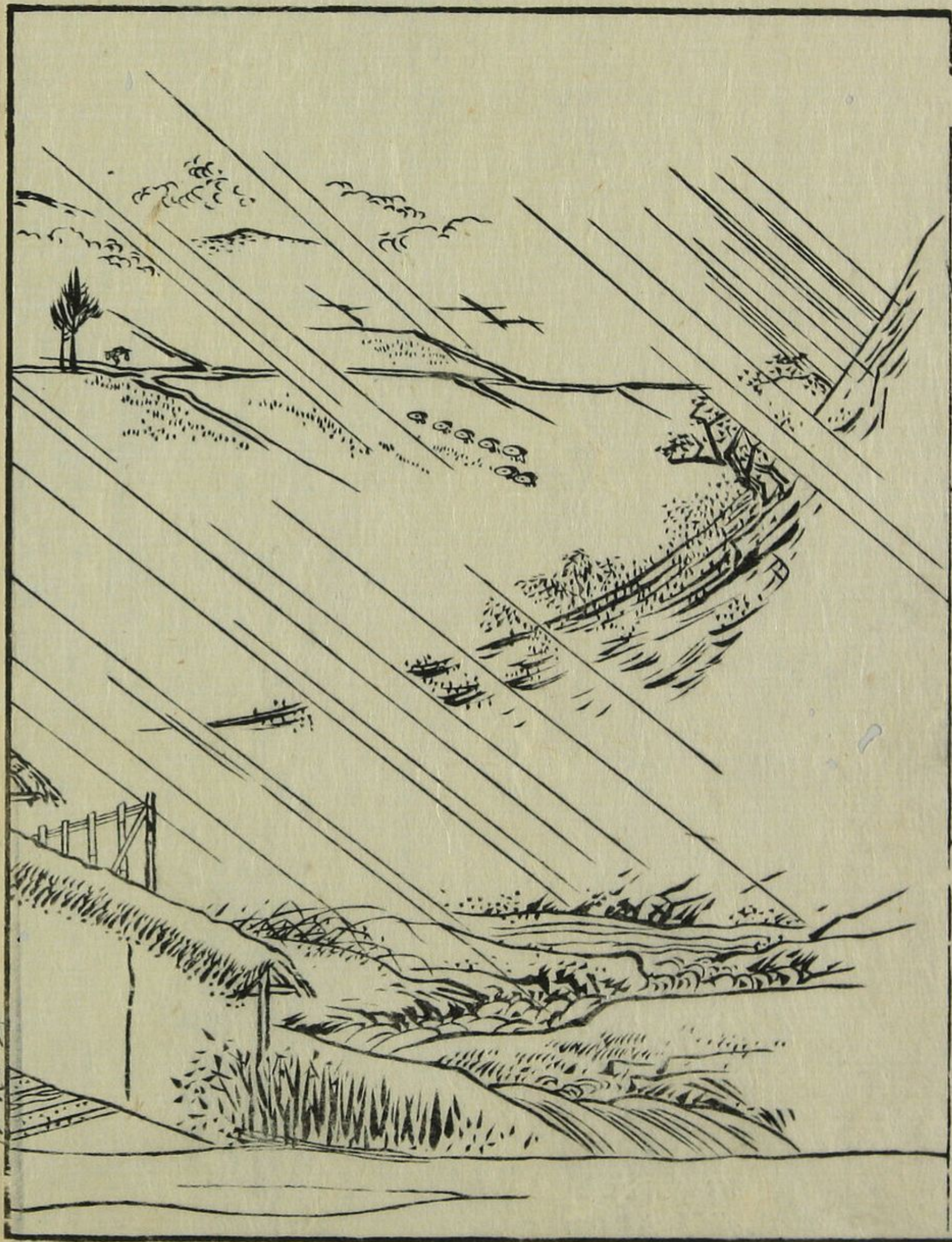
右大臣豊成の息女白龍と云

水毎月の稲葉の落もあつた

帝これのあを殿内あり

其情の如あるを憐れむ

爾雅曰五月梅欲
 黃落則水潤土厚
 杜礎皆汚蒸鬱
 成雨謂之梅雨
 丹生山田原村栗花爲
 氏のあがれ入梅穴
 あうれ入梅穴
 あうれ入梅穴
 思土の赤くいん
 べー系作そ者
 町の西名町とも
 の



冊生山田

子夜集



大岡の家へ丹生山田
翁は氏の旧屋へ柱

大同の家ハ丹生山田
稻本氏の旧屋ニ在

箱本氏の旧屋之柱
を虫喰ふて

實子載しん後ご上じやう府ふ

實じつ子こ載たい友とも上かみ向むかひ

丹頂の鶴の棲く

丹頂の鶴の棲く
とをろく俗

とてあふ俗
ふ年登と



天國の名を叙し、嗣々賜る所々之を成さく、白龍姫一男子、
 春を終ふにぬき、其家の東境に葬り、廟塔を建てる。其のたふ
 たるに、月をあらはし、雲あより名を涌出する。大聴小達、詔有て白龍姫
 と名付、天と崇め、氏を榮たふと賜り、其の出生の子は、成る後、佐
 真利と名され、廢后、鳥羽上皇、丹生山田、り、其の時、榮たふと賜り、

丹生のふとを、そのたふ、咲ふたり、つれて、後々、榮たふと賜り、

千年家

按、この小後、秋豐成卿、ハ、後、其の押持、後、其の押持、後、其の押持、
 みる、親族、ある、い、こ、小、後、其の押持、後、其の押持、後、其の押持、
 千年家、ハ、日、莊、衡、系、村、維、本、氏、の家、と、い、ふ、近、年、ま、と、同、二、年、の、文、字、あ、り、こ、今、
 ふ、年、を、と、く、め、り、こ、れ、ハ、古、代、の、家、と、い、ふ、谷、小、後、其の押持、後、其の押持、後、其の押持、
 こ、れ、より、あ、り、こ、れ、通、の、ハ、中、谷、小、後、其の押持、後、其の押持、後、其の押持、

谷、佐、小、平、家、の、人、や、菊、井、氏

田、福

義經推本

同、莊、藍、那、村、南、の、入、口、に、あ、り、義、經、は、本、佐、と、い、ふ、名、と、次、相、後、は、
 藍、名、村、に、あ、り、軍、藏、評、定、の、所、又、高、原、佐、と、い、ふ、名、と、次、相、後、は、

攝津名所圖會

